静岡県立大学

看護学部・研究科報

2018 年度

自己点検評価委員会

目次

I.　はじめに - 4 -
II.　看護学部の歴史 - 5 -
1. 歴史 - 5 -
III.　看護学部・大学院看護研究科の教員構成 - 7 -
1. 学部の教員構成 - 7 -
2. 研究科の教員構成 - 8 -
3. 年度途中着任の教員 - 9 -
4. 平成 30 年度全学委員会一覧 - 9 -
5. 学部委員会担当表 - 9 -
6. 学部・研究科合同委員会 - 10 -
7. 研究科委員会 - 10 -
IV.　看護学部・看護学研究科の教育課程 - 11 -
1. 学部 - 11 -
1）学部の理念 - 11 -
2）教育目標 - 11 -
3）ディプロマ・ポリシー - 11 -
4）カリキュラム・ポリシー - 12 -
5）アドミッション・ポリシー - 12 -
6）学部カリキュラム - 13 -
2. 研究科 - 22 -
1）研究科の理念 - 22 -
2）ディプロマ・ポリシー - 22 -
3）カリキュラム・ポリシー - 22 -
4）アドミッション・ポリシー - 22 -
3. 研究科カリキュラム - 23 -
4. 臨地実習表 - 26 -
1）看護コミュニケーション実習 - 26 -
2）アセスメント実習 - 27 -
3）老年看護学実習Ⅰ - 28 -
4）3 年次後期臨地実習配置表 - 29 -
5）成人看護学実習Ⅲ - 31 -
6）公衆衛生看護学実習Ⅱ（行政・学校・産業） - 33 -
7）国際保健・看護学実習 - 34 -
8）大学院修士課程助産学分野　助産学関連実習 - 35 -
5.　学生の研究 - 36 -
1）学部の指導体制と研究テーマ - 36 -
2）研究科の指導体制と研究テーマ - 42 -
V.　学生生活 - 44 -
1.　学生定員および在学生数 - 44 -
1）学部 - 44 -
2）研究科 - 44 -
2.　入学志願者数および入学者数とその背景 - 45 -
1）学部 - 45 -
2）研究科 - 46 -

3.　卒業・修了生の進路状況 - 47 -
1）学部 - 47 -
2）研究科 - 48 -
4.　免許・資格などの取得状況 - 48 -
VI.　国際交流 - 49 -
1. 平成 30 年度国際交流等事業 - 49 -
2. 国際保健・看護実習 - 55 -
1）国際保健・看護実習の実施 - 55 -
VII. 看護学部と看護学研究科の教育・研究・地域貢献活動 - 56 -
1. 領域別の教育活動と地域貢献活動 - 56 -
1）専門基礎領域の活動 - 56 -
2）基礎看護学領域の活動 - 57 -
3）成人・老年看護学領域の活動 - 59 -
4）小児看護学領域の活動 - 62 -
5）母性看護学・助産学領域の活動 - 64 -
6）精神看護学領域の活動 - 67 -
7）公衆衛生看護学領域の活動 - 68 -
8）在宅看護学領域の活動 - 69 -
9）国際看護学領域の活動 - 70 -
VIII. 学部・研究科としての社会貢献 - 72 -
1. 公開講座等の開催状況 - 72 -
2. 高大連携事業 - 73 -
3. 県民の日大学ツアー - 74 -

I. はじめに

本学では、人間尊重の理念に基づき、変動する社会の要請に応じて、看護専門職の役割を認識し、専門的知識・技術に裏付けされた判断によって、主体的に行動できる人材を育成しています。将来にわたって保健医療福祉における課題に積極的に取り組み、人々の健康生活の向上に寄与する人材を育成することを果たすべく、平成 30 年度に看護学部新カリキュラムを開始いたしました。また、グローバル化を図り海外の大学等との交流の充実や、学生及び教員の派遣、受け入れに取り組みました。看護学研究科の取り組みは、博士後期課程設置準備であり、3 月に文部科学省に申請をいたしました。今後も、大学教育の質の担保と大学・大学院教育の充実を目指していきます。

平成 30 年度当初に、看護学部および看護学研究科の課題として取り上げたものは以下のとおりです。

1. 看護学部
   1) 平成 30 年度カリキュラムの学習環境整備
   2) 平成 30 年度カリキュラムの実施 2 年目の評価
   3) 大学入学共通テストの対応を検討
   4) 2019 年度看護学部入試及び変更案

2. 看護学研究科
   1) 研究科の定員を含め将来構想を検討
   2) 研究指導担当教員の資格基準の明文化
   3) シラバスの書式統一と内容の検討
   4) 博士課程設置の申請

これらの課題は、各委員会等の活動により進めておりますが、まだ未達成の課題もあります。少子高齢社会の健康の護り手として、確かな看護判断能力と実践能力を身に付け、地域社会に貢献する人材育成をし続けるために、自己点検・評価に基づき更に質の高い教育・研究を提供できるよう改善を図ることに取り組んでいきます。

学部･研究科報作成にあたってご協力いただいた教員の皆様に心から感謝申し上げます。

2019 年 6 月

静岡県立大学　看護学部　金澤寛明
看護学研究科　渡邉順子

II. 看護学部の歴史

1. 歴史

		主な出来事
昭和 62 年	4 月	静岡県立大学開学、初代学長に内薗耕二が就任する。（県立三大学・静岡薬科大学（昭和 28 年開学〕、静岡女子大学（昭和 42 年開学）、静岡女子短期大学（昭和 26 年開学）を改組・統合し、総合大学とする。〕
平成　5 年	4 月	第 2 代学長に星猛が就任する。
平成　9 年	**4 月**	**看護学部看護学科が設置される。**
		初代学部長に矢野正子が就任する。
	10 月	中森正純元教授が名誉教授になる。
	12 月	第 2 回静岡健康・長寿学術フォーラムが開催される。（セッションⅢ長寿社会に向けての看護学の展望：看護学部が運営）
平成 11 年	4 月	第 3 代学長に廣部雅昭が就任する。
	11 月	中田健次郎元教授が名誉教授になる。
平成 13 年	**4 月**	**大学院看護学研究科（修士課程）が設置される。**
		初代研究科長に矢野正子が就任する。
		第 2 代学部長に佐藤登美が就任する。
平成 15 年	4 月	第 3 代学部長に木村正人が就任する。
		第 2 代研究科長に佐藤登美が就任する。
		矢野正子前研究科長が名誉教授になる。
	11 月	わかふじ大会（第 3 回全国障害者スポーツ大会）が静岡で開催される（第 58 回国民体育大会ＮＥＷ！！わかふじ国体と同時開催〕。
		（学部 2，4 年生全員がボランティア「わかふじアミィ」として、1 年間の研修を経て参加）
平成 17 年	4 月	第 4 代学長に西垣克が就任する。
		第 4 代学部長に小寺栄子が就任する。
		健康支援センターが設置される（初代センター長に永井洋子教授）。
平成 19 年	4 月	静岡県公立大学法人が設置・経営する大学となる。
		初代理事長に鈴木雅近、学長に西垣克が就任する。
		第 5 代学部長及び第 3 代研究科長に木村正人が就任する。
	10 月	第 4 代研究科長に式守晴子が就任する。
		永井洋子元教授が名誉教授になる。
平成 21 年	2 月	学長代行に木苗直秀が就任する。
	3 月	第 5 代学長に木苗直秀が就任する。
平成 22 年	4 月	看護学研究科看護学専攻助産学専門分野が助産師学校となる。
平成 23 年	4 月	第 2 代理事長に竹内宏が就任する。
		第 6 代学部長に金澤寛明が就任する。
		第 5 代研究科長に中垣紀子が就任する。
平成 24 年	4 月	第 3 代理事長に本庶佑が就任する。
平成 25 年	4 月	第 7 代学部長に式守晴子が就任する。
		第 6 代研究科長に古川文子が就任する。
平成 26 年	4 月	看護学部入学定員を 120 人に増員する。
平成 27 年	3 月	小鹿キャンパスに新看護学部棟が完成する。

平成 27 年	4 月	第 6 代学長に鬼頭宏が就任する。
		第 8 代学部長に金澤寛明が就任する。
		第 7 代研究科長に西川浩昭が就任する。
		看護学部及び看護学研究科の主な教育拠点を小鹿キャンパスに移転し、2 キャンパス制の運用を開始する。
平成 28 年	4 月	短期大学部看護学科教員に兼任辞令が交付される。
平成 28 年	10 月	短期大学部看護学科が廃科され、短期大学部看護学科所属教員が看護学部専任となる。
平成 29 年	4 月	第 9 代学部長に金澤寛明が就任する（再任）。
		第 8 代研究科長に渡邉順子が就任する。
平成 30 年	4 月	編入学定員を 25 人に増員する。

III. 看護学部・大学院看護研究科の教員構成

1. 学部の教員構成

表 3-1-1　H30 年度学部の教員構成

※（H30 年 4 月 1 日現在）

区　分		担当教員			
		教授	准教授	講師	助教
学部基礎科目	医学系	金澤寛明 （解剖生理学） 井上健一郎 （呼吸器病学）	高林ふみ代 （食品衛生）	濵井妙子 (薬学、国際保健学)	三﨑健太郎 （環境毒性学）
	保健学系				
専門教育科目	基礎看護学	荒井孝子 操華子	山口みのり 永谷幸子	管原清子	倉本直樹 本家淳子
	成人看護学	青木和惠 山田紋子 田中範佳	鈴木琴江	糸川紅子 前野真由美	飯塚真樹 木元千奈美 石切山千恵 影山葉子
	老人看護学		安田真美	下吹越直子	
	精神看護学	篁　宗一	長澤利枝 村方多鶴子		近藤美保 遠藤りら
	小児看護学	山下早苗		鈴木和香子	
	母性看護・助産学	太田尚子	中川有加 藤田景子 石川紀子	福島恭子	山田貴代 鈴木　恵 高木　静
	公衆衛生看護学	深江久代	今磯純子 杉山真澄	佐藤瑠美	岩本真弓 望月友美子 安藤継子
	在宅看護学	冨安眞理		今福恵子	酒井知子 田中悠美
	国際保健･看護学	渡邊順子		根岸まゆみ	

2. 研究科の教員構成

表 3-2-1　H30 年度研究科の教員構成

※（H30 年 4 月 1 日現在）

区　分		担当教員		
		教授	准教授	講師
共通科目	看護学共通科目	金澤寛明・井上健一郎 渡邊順子・操華子 青木和惠・山田紋子 田中範佳・　篁　宗一 太田尚子・冨安眞理	村方多鶴子 今磯純子 ＜兼坦＞ 東野定律 （経営情報ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ研究科）	今福恵子 （助教）影山葉子
	他領域連携科目	＜兼担＞ 森本達也・今井康之 (薬食生命科学総合学府) 犬塚協太 （国際関係学研究科）		＜兼担＞ 刀坂康史・三宅正紀 黒羽根孝太 （助教）砂川陽一・中西勝宏 (薬食生命科学総合学府) 国保祥子 （経営情報ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ研究科）
専門科目	保健・医療システム学			
	看護技術学	☆荒井孝子 ☆渡邊順子 ☆操　華子		
	看護管理学	☆渡邊順子		
	地域看護学	☆冨安眞理		
	成人・老人看護学	☆青木和惠 ☆山田紋子 ☆田中範佳		糸川紅子
	助産学	☆太田尚子	中川有加 藤田景子 石川紀子	福島恭子 （助教）山田貴代 （助教）高木　静 （助教）鈴木　恵
	小児看護学	☆山下早苗		
	精神看護学	☆篁　宗一	村方多鶴子	

☆主指導教員

3. 年度途中着任の教員

表 3-3-1　H30 年度途中着任教員

※（H31 年 3 月 31 日現在）

区分	職名	着任月日	氏名
成人看護学	助教	平成 31 年 1 月 1 日	松裏 豊

4. 平成 30 年度全学委員会一覧

全学委員会名	
広報委員会	RI 取り扱い管理委員会（放射線安全委員会）
留学生委員会	核燃料物質管理委員会
入学者選抜実施委員会	動物実験センター運営委員会
個別学力検査問題検討委員会	ハラスメント防止・対策委員会
自己評価委員会	ハラスメント緊急対策委員会
共同利用施設運営委員会	ハラスメント相談員
キャリア支援センター委員会	はばたき寄金運営委員会
学生委員会	発明委員会
教務委員会	開学記念行事実行委員会
教務管理部各部会組織	施設有効利用に関する委員会
図書館情報委員会	感染症管理対策委員会
保健衛生委員会	感染症流行検討部会
教職課程委員会	麻薬・向精神薬管理委員会
研究倫理委員会	中期・年度計画推進委員会作業部会
公開講座委員会	FD 委員会
教育研究組織将来計画委員会	情報センター運営委員会
国際交流委員会	利益相反委員会
環境安全委員会	男女共同参画委員会

5. 学部委員会担当表

学部委員会	
学部学生委員会	学部教務委員会
カリキュラム評価委員会	入学者選抜実施委員会
FD 検討委員会	

6. 学部・研究科合同委員会

学部・研究科合同委員会	
予算委員会	実習委員会
自己点検評価中期計画推進委員会	広報・企画委員会
教育情報環境整備委員会	研究倫理審査委員会

7. 研究科委員会

研究科委員会	
教務・カリキュラム委員会	研究科学生委員会
研究科入学者選抜実施委員会	ＦＤ委員会

IV.看護学部・看護学研究科の教育課程

1．学部

1） 学部の理念

人間尊重の理念に基づき、変動する社会の要請に応じて、看護専門職の役割を認識し、専門的知識・技術に裏付けされた判断によって、主体的に行動できる人材を育成する。また将来にわたって保健医療福祉における課題に積極的に取り組み、人々の健康生活の向上に寄与する人材を育成する。

2） 教育目標

1. 生命の尊厳を基盤とし、人間を身体的、心理的、社会的存在として総合的に理解できる能力を養う。
2. 根拠に基づいた系統的な知識を状況に応じて適用し、論理的かつ批判的に判断する能力を養う。
3. 看護実践に必要な専門的知識、技術及び姿勢を修得し、個人および集団の健康上の課題を適切に解決する能力を養う。
4. 対象者とその家族、地域住民と看護専門職としての関係を積極的に形成し、発展させる能力を養う。
5. 保健医療福祉チームの一員として、対象者とその家族、地域住民および他の専門職と協働できる能力を養う。
6. 看護専門職としての高い倫理観を持ち、時代・社会の変化に対応するために、常に自己研鑽につとめ、看護専門職の担うべき役割を主体的に追究することができる能力を養う。
7. 国際的視野を持ち、国際社会の中で保健医療福祉分野の交流や協力ができる基礎能力を養う。

3） ディプロマ・ポリシー

1. 幅広く深い教養を身につけ、「ひと」および「ひと」を取り囲む生活や地域社会、環境への関心を持つことができる。
2. 豊かな人間性と倫理観を持ち、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。
3. あらゆる「ひと」と地域社会の健康課題とそれらに対する対応を統合的に考えることができる。
4. 保健医療福祉のチームの一員として協働でき、地域社会の課題解決に取り組むことができる。

5. 地域・国際的動向をふまえ、保健医療福祉の課題における看護の必要性と役割を理解し、責任ある行動を取ることができる。
6. 看護学の発展に対応するために、探究心を持ち主体的に学ぶことができる。

4）カリキュラム・ポリシー

1. 基礎分野Ⅰ：5学部横断型の全学共通科目として、広い教養と知識を学び、総合的かつ自主的な判断能力を養う。また、地域理解として「しずおか学」科目群の履修も必修とする。
2. 基礎分野Ⅱ：地域・国際的動向をふまえた、保健医療福祉の課題に対応する看護実践の基礎となる能力を養うことを目的とする。「主体性と判断力の育成」「英語コミュニケーション」「運動」「研修」「教育」の5科目群からなる。
3. 専門基礎分野：人間の健康、生活・社会の理解及び看護実践の基礎となる科学的知識を看護専門分野の履修に先立ち修得する。「人間と人間生活の理解」「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」の4科目群からなる。
4. 看護専門分野：個人、家族及び集団の健康ニーズに対応した看護実践に必要な専門知識・技術の修得を目的とし、「専門分野Ⅰ」「専門分野Ⅱ」「統合分野」の3科目群からなる。

1） 専門分野Ⅰ：

看護学の理念的理解と人間の健康生活を支援するための基本的な看護方法　や技術を修得する。

2） 専門分野Ⅱ：

看護の基本的理念を基に、人間の発達段階と健康レベルに対応する看護方　法について学ぶ。加えて少子高齢社会の進展や慢性疾患の増加、医療の高 度化・専門化に対応した専門領域の看護方法についても学ぶ。さらに、演習を通して領域・分野毎の看護方法や看護技術を修得し、理論と実践の統合を目的とする臨地実習を行う。

3） 統合分野：

看護の基本的理念を基に、在宅・地域などの看護活動の場に対応する看護 方法について学ぶ。そして、健康長寿延伸の取り組みや静岡型地域包括ケ アに関連した演習や実習を通して看護方法や看護技術を学ぶ。さらに、4年次の「卒業研究」「発展看護実習」等を通じて、看護専門分野の教育内容の統合を図る。

5）アドミッション・ポリシー

1. 日本語および英語による聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基本的な能力を身につけている。
2. ものごとを論理的に探求するために必要な高等学校の教育課程をバランスよく修得している。
3. 多様な価値観を尊重し真摯な態度で「ひと」に向きあえる。

4. 地域社会に看護職者として貢献する意思を持っている。

6）学部カリキュラム

	全学共通科目　科目名		全学共通科目　科目名
第1部門（リテラシーとスタディ・スキル）	ドイツ語入門	第3部門（現代教養）	日本の歴史と文化
	フランス語入門		くらしと化学Ａ　【英語による科目】
	スペイン語入門		くらしと化学Ｂ　【英語による科目】
	中国語入門		基礎生命科学ＩＡ　【英語による科目】
	日本語作文Ａ		基礎生命科学ＩＢ　【英語による科目】
	日本語作文Ｂ		基礎生命科学ⅡＡ　【英語による科目】
	情報検索実習		基礎生命科学ⅡＢ　【英語による科目】
	情報処理実習		現代日本文化入門Ａ　【英語による科目】
	ヒューマン・ケア		現代日本文化入門Ｂ　【英語による科目】
	ライティング基礎		経営分析入門Ａ　【英語による科目】
	ライティング実践		経営分析入門Ｂ　【英語による科目】
	ＴＯＥＦＬ留学英語Ⅰ		英語で学ぶ日本語学ＩＡ　【英語による科目】
	ＴＯＥＦＬ留学英語Ⅱ		英語で学ぶ日本語学ＩＢ　【英語による科目】
	ＴＯＥＩＣビジネス基礎英語		英語で学ぶ日本語学ⅡＡ　【英語による科目】
	ＴＯＥＩＣビジネス英語Ⅰ		英語で学ぶ日本語学ⅡＢ　【英語による科目】
	ＴＯＥＩＣビジネス英語Ⅱ		財務会計入門Ａ　【英語による科目】
第2部門（概論）	自然科学概論		財務会計入門Ｂ　【英語による科目】
	化学入門		国際安全保障入門Ⅰ　【英語による科目】
	生物学入門		国際安全保障入門Ⅱ　【英語による科目】
	薬剤発達史入門		言語の学習・習得ＩＡ　【英語による科目】
	物理学入門		言語の学習・習得ＩＢ　【英語による科目】
	環境科学入門		言語の学習・習得ⅡＡ　【英語による科目】
	哲学入門		言語の学習・習得ⅡＢ　【英語による科目】
	社会思想史入門		Japanology　【英語による科目】
	歴史学入門		静岡の健康長寿を支える取り組みと人々　【しずおか学】
	宗教学入門		静岡の防災と医療　【しずおか学】
	社会学入門		静岡地域食材学Ａ　【しずおか学】
	国際関係学入門		静岡地域食材学Ｂ　【しずおか学】
	文化人類学入門		バイオ　－　静岡から世界へＡ　【しずおか学】
	公共政策入門		バイオ　－　静岡から世界へＢ　【しずおか学】
	心理学入門		茶学入門　【しずおか学】
	生涯発達心理入門		ムセイオン静岡　－　MUSEUMと文化Ａ　【しずおか学】

	生命倫理入門		ムセイオン静岡　－　MUSEUM と文化 B　【しずおか学】
	知的財産管理入門		ムセイオン静岡　－　世界の文化遺産 A　【しずおか学】
			ムセイオン静岡　－　世界の文化遺産 B　【しずおか学】
			ムセイオン静岡　－　舞台芸術 A　【しずおか学】
			ムセイオン静岡　－　舞台芸術 B　【しずおか学】
			地域産業の国際比較－静岡と世界 A　【しずおか学】
			地域産業の国際比較－静岡と世界 B　【しずおか学】
			静岡の市民活動　【しずおか学】
		総合科目	静岡市連携・留学生等基礎教育講座　【しずおか学】
			地域づくりの理論　【しずおか学】
			地域づくりの方法　【しずおか学】
			地域づくりインターシップ　【しずおか学】
			ふじのくに学(富士山)　【しずおか学】
			ふじのくに学(お茶)　【しずおか学】
			ふじのくに学(世界農業遺産)　【しずおか学】
			ふじのくに学(雑草学)　【しずおか学】
			総合科目Ⅰ(キャリア形成概論Ⅰ)
			総合科目Ⅱ(キャリア形成概論Ⅱ)
			男女共同参画社会とジェンダー
			人権が支える社会
			グローバル政治経済事情
			ジャーナリズム論

授業科目一覧

(平成 26 年度以降の入学生用)

	授業科目の名称			配当年次	開講学期	単位数 必修	単位数 選択	備考	
授業科目の概要	全学共通科目	第 1 部門（リテラシーとスタディスキル）		1・2・3・4	前・後		各 2～1	10 単位以上選択	
		第 2 部門（概論）							
		第 3 部門（現代教養）							
		総合科目							
	学部基礎科目	運動	身体運動科学ＡⅠ	1	通		2		
			身体運動科学ＡⅡ	2	通		2		
		研修	海外英語研修	1・2・3・4			2		
		教育	日本国憲法	1・2・3・4			2		
			教育学	2	前		2		

	授業科目の名称			配当年次	開講学期	単位数 必修	単位数 選択	備考	
授業科目の概要	学部基礎科目	主体性と判	基礎セミナー	1	前	1			
			看護統合セミナーⅠ	2	通	1			
		英語コミュニケーション	基礎英語Ⅰ	1	前	1			
			基礎英語Ⅱ	1	前	1			
			基礎英語Ⅲ	1	後	1			
			基礎英語Ⅳ	1	後	1			
			英語コミュニケーションⅠ	2	前	1			
			英語コミュニケーションⅡ	2	後	1			
		心と体の理解	人間関係論	1	前	1			
			機能形態学Ⅰ	1	前	2			
			機能形態学Ⅱ	1	後	1			
			生物化学	1	前	1			
			病理学	1	後	1			
			微生物学	1	後	1			
			臨床薬理学	2	前	1			
			臨床栄養学	2	前	1			
			病態学Ⅰ（内科）	2	前	1			
			病態学Ⅱ（外科）	2	前	1			
			病態学Ⅲ（小児）	2	後	1			

			病態学Ⅳ（精神）	2	後	1			
			病態学Ⅴ（母性）	2	後	1			
			症候論	1	後	1			
			臨床検査・画像診断	2	前	1			
			基礎健康科学実習	1	後	2			
			臨床心理学	2	後		1	2単位選択	
			健康行動論	2	前		1		
			運動と健康の生理学	1	前		1		
		社会と健康の理解	健康と社会	1	前	2			
			現代社会論	1	前	1			
			社会福祉論	1	後	1			
			保健学	2	前	2			
			国際保健	1	後	1			
			保健福祉政策論	2	後	1			必修　39単位
			統計と情報処理	1	前	1			選択 4単位
			保健医療統計学	1	後	1			
			実践保健医療統計学	2	前	1			
			疫学	2	後	2			
			健康環境論	1	前		1	2単位選択	
			医療・看護経済学	2	後		1		
			国際看護論	2	後		1		
授業科目の概要	授業科目の名称			配当年次	開講学期	単位数 必修	単位数 選択	備考	
	専門教育科目	看護の基盤	看護学概論	1	前	2			
			看護理論	1	後	1			
			看護過程	2	前	1			
			看護と安全	2	前	1			
			対象の理解Ⅰ (成人看護学)	1	後	1			
			対象の理解Ⅱ (老年看護学)	2	前	1			
			対象の理解Ⅲ (母性看護学)	2	前	1			
			対象の理解Ⅳ (精神看護学)	2	後	1			
			対象の理解Ⅴ (小児看護学)	2	後	1			
			地域家族支援論	2	後	2			
			看護と倫理	2	後	1			
			ヘルスプロモーション・健康教育論	2	後	1			

		看護実践Ⅰ	ヘルスアセスメント技術	2	前	2			
			基礎看護技術Ⅰ	1	前	2			
			基礎看護技術Ⅱ	1	後	1			
			基礎看護技術Ⅲ	2	後	1			
			成人看護学Ⅰ	2	後	2			
			成人看護学Ⅱ	3	前	2			
			成人看護学演習	3	前	1			
			老年看護学	2	後	2			
			老年看護学演習	3	前	1			
			母性看護学Ⅰ	2	後	1			
			母性看護学Ⅱ	3	前	1			
			母性看護学演習	3	前	1			
			精神看護学	3	前	2			
			精神看護学演習	3	前	1			
			小児看護学	3	前	2			
			小児看護学演習	3	前	1			
			公衆衛生看護学概論	2	前	2			
			地区活動論	2	後	1			
			公衆衛生看護活動論Ⅰ	3	前	2			
			公衆衛生看護活動論Ⅱ	3	前	2			
			公衆衛生看護管理論	4	前		1	※保健師国家試験受験資格要件	
			公衆衛生看護学演習	4	前		1	※保健師国家試験受験資格要件	
			国際保健・看護演習	4	前		1	2単位選択	
			在宅看護学	3	前	2			
			在宅看護学演習	3	前	1			
			ターミナルケア	4	前	1			
		看護実践Ⅱ	ケア場面実習	1	前	1			
			看護アセスメント実習	2	後	2			
			老年看護学実習Ⅰ	2	後	1			
			老年看護学実習Ⅱ	3	後	2			
			成人看護学実習Ⅰ	3	後	2			
			成人看護学実習Ⅱ	3	後	2			
			成人看護学実習Ⅲ	4	前	2			
			母性看護学実習	3	後	2			
			小児看護学実習	3	後	2			
			精神看護学実習	3	後	2			
			公衆衛生基礎実習	1	前	1			
			公衆衛生看護学実習Ⅰ	3	後	2			

			公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	前		2	※保健師国家試験受験資格要件	
			国際保健・看護実習	4	後		2	2単位選択	
			在宅看護学実習	3	後	2			
			発展看護実習Ⅰ	4	通	1			
			発展看護実習Ⅱ	4	通	1			
授業科目の概要	授業科目の名称			配当年次	開講学期	単位数 必修	単位数 選択	備考	
	専門教育科目	看護の役割と発展	災害看護	2	前	1			
			看護研究	3	前	1			
			卒業研究	4	通	2			
			看護統合セミナーⅡ 災害看護	4	通		1	1単位選択	必修 77単位
			看護統合セミナーⅡ 総合看護	4	通		1		
			看護統合セミナーⅡ チーム医療	4	通		1		
			看護管理論	4	後		1	2単位選択	選択 3単位
			看護教育論	4	後		1		
			看護政策論	4	後		1		
			最新看護の動向	4	通		1		

※ 卒業に必要な最低修得単位数は 133 単位である。卒業認定に必要な単位を修得することで、「看護師」の国家試験受験資格を得られる。

※ さらに「保健師国家試験受験資格要件」の指定された 4 単位

(①「公衆衛生看護管理論（1 単位)」、「公衆衛生看護学演習（1 単位)」及び「公衆衛生看護学実習Ⅱ（2 単位)」、

又は

②公衆衛生看護管理論（1 単位)」、「国際保健・看護演習（1 単位)」及び「国際保健・看護実習（2 単位)」 のいずれかの組み合わせ)

を修得することで、「保健師」の国家試験受験資格を得られる。

【海外英語研修の履修・認定方法】

(1) 本学部が認定した 3 週間あるいは 4 週間のコースを修了した学生に 2 単位を認定する。本学部授業期間中の履修については原則として単位は認定しない。

(2) 成績は本学で認定する。

(3) 学生は、所定の期日までに事務局学生室へ以下の書類を添えて単位認定を申請する。

(ア)「海外英語研修単位認定申請書」

(イ) 認定されたコースの修了書オリジナルとそのコピー

(ウ) 担当教員より Student Report 等の成績証明書が渡されている場合には、オリジナルとそのコピー

※ ただし本学入学以前に終了したものについては認められない。
また、修了証明書の提示がない場合は、単位を認定できない。

授業科目一覧

(平成 30 年度以降の入学生用)

	授業科目の名称			配当年次	開講学期	単位数 必修	単位数 選択	頁	取得必要単位
授業科目の概要	基礎分野Ⅰ(全学共通科目)	第1部門		1・2・3・4	前・後		各2～1		10単位以上選択
		第2部門							
		第3部門							
		総合科目							
	基礎分野Ⅱ	運動	身体運動科学	1	通		2		
		研修	海外英語研修	1・2・3・4			2		
		教育	日本国憲法	1	後		2		
			教育学	2	後		2		
	基礎分野Ⅱ	主体性と判断力の育成	基礎セミナーⅠ	1	前	1			必修7単位
			基礎セミナーⅡ	2	前		1		
		英語コミュニケーション	フレッシュマンイングリッシュⅠ	1	前	1			
			フレッシュマンイングリッシュⅡ	1	前	1			
			フレッシュマンイングリッシュⅢ	1	後	1			
			フレッシュマンイングリッシュⅣ	1	後	1			
			英語コミュニケーションⅠ	2	前	1			
			英語コミュニケーションⅡ	2	後	1			
	専門基礎分野	人間と人間生活の理解	人間関係論	1	前	2			必修28単位＋選択4単位
			臨床心理学	2	後		1		2単位選択
			健康行動論	2	前		1		
			運動と健康の生理学	1	前		1		
			健康環境論	1	前		1		2単位選択
			医療・看護経済論	2	前		1		
			国際看護論	2	後		1		
		人体の構造と機能	機能形態学Ⅰ	1	前	2			
			機能形態学Ⅱ	1	後	2			
			生物化学	1	前	1			
			基礎健康科学演習	1	後	2			
		疾病の成り立ちと回復の促進	症候論	1	後	2			
			微生物学	1	後	1			
			臨床薬理学	2	前	2			
			臨床栄養学	2	前	2			
			病態学	2	前	2			
		健康支援と社会保障制度	公衆衛生学	1	前	2			
			社会福祉論	1	後	1			
			保健福祉行政論	2	前	2			
			保健医療統計学	1	前	2			
			情報処理演習	1	後	1			
			疫学	2	後	2			
	基礎分野Ⅰ＋基礎分野Ⅱ＋専門基礎分野 単位数計								49(選択4含む)

	授業科目の名称			配当年次	開講学期	単位数		頁	取得必要単位
						必修	選択		
授業の概要	専門分野	専門分野Ⅰ	看護学原論	1	前	2			必修51単位
			基礎看護技術論Ⅰ	1	前	2			
			基礎看護技術論Ⅱ	1	後	2			
			基礎看護技術演習Ⅰ	1	後	1			
			看護コミュニケーション演習	1	前	1			
			基礎看護技術演習Ⅱ	1	後	1			
			看護アセスメント演習	2	前	1			
			看護と倫理	2	後	1			
			看護コミュニケーション実習	1	前	1			
			看護アセスメント実習	2	前	2			
		専門分野Ⅱ	慢性看護学概論	2	後	2			
			慢性看護援助論演習	2	後	1			
			急性期看護学概論	3	前	2			
			急性期看護援助論演習	3	前	1			
			慢性看護学実習	3	後	2			
			急性期看護学実習	3	後	2			
			臨床シミュレーションEBN実習	4	前	2			
			老年看護学概論	2	後	2			
			老年看護援助論	2	後	1			
			老年看護学演習	3	前	1			
			老年看護学実習Ⅰ	3	後	2			
			老年看護学実習Ⅱ	3	後	1			
			母性看護学概論	2	前	1			
			母性看護援助論Ⅰ	2	後	1			
			母性看護援助論Ⅱ	3	前	1			
			母性看護学演習	3	前	1			
			母性看護学実習	3	後	2			
			小児看護学概論	2	後	2			
			小児看護援助論	3	前	1			
			小児看護学演習	3	前	1			
			小児看護学実習	3	後	2			
			精神看護学概論	2	後	2			
			精神看護援助論	3	前	1			
			精神看護学演習	3	前	1			
			精神看護学実習	3	後	2			

授業科目の概要	授業科目の名称			配当年次	開講学期	単位数 必修	単位数 選択	頁	取得必要単位
	専門分野	統合分野	地域包括ケア	1	後	1			必修25単位
			災害看護セミナー	2	後	1			
			地域家族支援論	2	後	2			
			在宅看護学概論	3	前	2			
			在宅看護学演習	3	前	1			
			在宅看護学実習	3	後	2			
			看護コミュニケーション演習アドバンス	3	後		1		
			看護アセスメント演習アドバンス	4	前		1		
			公衆衛生看護学概論	1	後	2			
			ヘルスプロモーション	2	前	2			
			国際保健・災害看護論	2	前	2			
			公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	後	2			
			公衆衛生看護基礎実習	2	後	1			
			公衆衛生看護活動論Ⅱ	3	前		2		※保健師国家試験受験資格要件
			公衆衛生看護管理論	3	前		2		
			公衆衛生看護方法論	3	前		2		
			公衆衛生看護学演習	3	後		1		
			公衆衛生看護学実習Ⅰ	4	前		2		
			公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	前		2		
			看護研究	3	前	1			
			卒業研究A	3	通		2		
			卒業研究B	4	通	2			
			国際保健・看護演習	4	前		1		
			国際保健・看護実習	4	通		2		
			発展看護実習	4	通	2			
			看護管理論	4	後	1			
			看護政策論	4	後	1			
			看護キャリアデザイン論	4	後		2		
							専門分野　単位数計		76
									125
			卒業要件(最低単位数)						

※ 卒業に必要な最低修得単位数は 125 単位である。卒業認定に必要な単位を修得することで、「看護師」の国家試験受験資格を得られる。

※ さらに「保健師国家試験受験資格要件」の指定された 11 単位
公衆衛生看護活動論Ⅱ(2 単位)、公衆衛生看護管理論(2 単位)、公衆衛生看護方法論(2 単位)、公衆衛生看護学演習(1 単位)、公衆衛生看護学実習Ⅰ(2 単位)、公衆衛生看護学実習Ⅱ(2 単位)
を修得することで、「保健師」の国家試験受験資格を得られる。

※全学共通科目の「しずおか学」科目群については、卒業までに最低 2 単位履修すること。

【海外英語研修の履修・認定方法】

（1）本学部が認定した 3 週間あるいは 4 週間のコースを修了した学生に 2 単位を認定する。本学部授業期間中の履修については原則として単位は認定しない。

（2）成績は本学で認定する。

（3）学生は、所定の期日までに事務局学生室へ以下の書類を添えて単位認定を申請する。

ア　「海外英語研修単位認定申請書」

イ　認定されたコースの修了書オリジナルとそのコピー

ウ　担当教員より Student　Report 等の成績証明書が渡されている場合には、オリジナルとそのコピー

※　ただし本学入学以前に終了したものについては認められない。
また、修了証明書の提示がない場合は、単位を認定できない。

2. 研究科

1)　研究科の理念

静岡県立大学大学院看護学研究科においては、いかなる状況下においても、自己の人間性を基盤に習得した専門的知識を活用し最適な看護サービスが提供でき、看護関係職の良きリーダーとなる人材の養成を目指している。生命関連領域の諸科学と連携し、見識のある高度な専門職能を有する人材かつ看護科学の教育・研究および実践活動を担う人材を養成し、人々の健康増進を図り、豊かな国際社会の構築に寄与する。

2)　ディプロマ・ポリシー

本学修士課程では所定の単位を修め、修士論文および最終試験に合格したことにより、以下の能力が認められたものとして修士（看護学）の学位を授与します。

1. 看護の専門分野における優れた研究能力と専門性を修得し、その分野におけるリーダーシップを発揮することが期待できる。
2. 実践看護分野において、専門的で高度な実践能力および指導力を有する。
3. 看護・保健・医療・福祉の場における課題に関して主体的に取り組むことができる。
4. 健全な研究倫理を身につけ、様々な領域において活躍が期待できる。

3)　カリキュラム・ポリシー

本研究科は、生命関連領域の諸科学と連携し、見識のある高度な専門職能を有する人材かつ看護科学の教育・研究および実践活動を担う人材を養成し、人々の健康増進を図り、豊かな国際社会の構築に寄与できるよう以下の通り教育課程を編成し、実施する。

1. 生命諸科学と連携し、看護学固有の高度な専門知識や技術を習得できるようにカリキュラムを編成する。
2. 看護学の発展に寄与する、知の創造を担う研究能力や人材開発の醸成を行うカリキュラムを編成する。
3. 社会保障制度の運営に寄与する人材を育成するカリキュラムを編成する。
4. 国際保健の分野を含め、広く社会の看護ニーズに対応できる、柔軟な適応力の醸成を行うカリキュラムを編成する。

4)　アドミッション・ポリシー

本研究科の重要な目的は、看護サービスの質の向上や臨床研究の指導者、看護系大学における教育や研究を担う人材を養成することである。

今後、看護サービスの各領域で活躍できる人材は、総合的な視野と保健・医療・福祉全般にわたる高い見識と専門技術を有することが求められる。同時に、経営・管理

的な視点から時代や社会の変化と、その要請に機敏な対応能力を備えていることが求められる。

1. 看護学および看護実践への強い関心を有し、さらなる専門性を磨こうとする意思を有している。
2. 看護・保健・医療・福祉分野の基礎的な知識・技術を有し、より深めようとする意思を有している。
3. 看護実践で生じる様々な課題の解決により貢献しようとする強い意思を有している。

3. 研究科カリキュラム

H30 年度　教育課程

領域		科目名	単位数		1 年次		2 年次		H29 年度
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	未開講
共通科目	看護学共通科目	研究法 I	2		30				
		研究法 II	2		30				
		看護理論		2	30		30		
		看護倫理		2	30		30		
		看護と医事法		2		30		30	
		看護教育論		2	30		30		
		看護政策論		2	30		30		
		コンサルテーション論		2		30		30	
		家族看護論		2		30		30	
		在宅看護論		2		30		30	
		感染看護論		2		30		30	
		看護情報学特論		2	30		30		
		病態生理学		2		30		30	
		生体構造機能論		2	30	30	30	30	
		社会人間行動論		2		30		30	
		国際保健医療論		2	30		30		
		英文科学論文講読		2	30		30		
		母子相互作用支援論		2		30		30	
	他領域連	病態薬学特論		2	30		30		

		微生物学特論		2	30		30		
		臨床栄養学特論		2		30		30	▲
		環境影響特論		2	30		30		▲
		現代社会研究Ⅰ		2		30		30	
		経営組織論特論		2		30		30	
基盤看護学領域	看護技術学	看護技術学特論 Ⅰ		2	30				
		看護技術学特論 Ⅱ		2	30				
		看護技術学特論 Ⅲ		2	30				
		看護技術学演習 Ⅰ		2		30			
		看護技術学演習 Ⅱ		2		30			
		看護技術学演習 Ⅲ		2		30			
		看護技術学応用実習 Ⅰ		2		60			
		看護技術学応用実習 Ⅱ		2		60			
		看護技術学応用実習 Ⅲ		2		60			
		看護技術学特別研究		8			60	60	
	看護管理学	看護管理学特論		2	30				
		看護管理学演習		2		30			
		看護管理学応用実習		2		60			
		看護管理学特別研究		8			60	60	
実践看護学領域	成人・老人看護学	成人・老人看護学特論 Ⅰ		2	30				
		成人・老人看護学特論 Ⅱ		2	30				
		成人・老人看護学特論 Ⅲ		2	30				
		成人・老人看護学演習 Ⅰ		2		30			
		成人・老人看護学演習 Ⅱ		2		30			
		成人・老人看護学演習 Ⅲ		2		30			
		成人・老人看護学応用実習 Ⅰ		2		60			
		成人・老人看護学応用実習 Ⅱ		2		60			
		成人・老人看護学応用実習 Ⅲ		2		60			
		成人・老人看護学特別研究 Ⅰ		8			60	60	
		成人・老人看護学特別研究 Ⅱ		8			60	60	
		成人・老人看護学特別研究 Ⅲ		8			60	60	
実践看護学領域	精神看護学	精神看護学特論 Ⅰ		2	30				
		精神看護学特論 Ⅱ		2	30				▲
		精神看護学特論 Ⅲ		2	30				▲
		精神看護学演習 Ⅰ		2		30			
		精神看護学演習 Ⅱ		2		30			▲
		精神看護学演習 Ⅲ		2		30			▲
		精神看護学応用実習 Ⅰ		2		60			
		精神看護学応用実習 Ⅱ		2		60			▲
		精神看護学応用実習 Ⅲ		2		60			▲
		精神看護学特別研究		8			60	60	
	小児看護学	小児看護学特論		2	30				▲
		小児看護学実践特論 Ⅰ		2	30				▲

		小児看護学実践特論 Ⅱ		2	30				▲
		小児看護学実践特論 Ⅲ		2		30			▲
		小児看護学実践特論 Ⅳ		2		30			▲
		小児看護学演習 Ⅰ		2		30			▲
		小児看護学演習 Ⅱ		2		30			▲
		小児看護学演習 Ⅲ		2		30			▲
		小児看護学演習 Ⅳ		2		30			▲
		小児看護学応用実習 Ⅰ		2		60			▲
		小児看護学応用実習 Ⅱ		2		60			▲
		小児看護学応用実習 Ⅲ		2		60			▲
		小児看護学特別研究		8			60	60	▲
広域看護学領域	地域看護学	地域看護学特論		2	30				
		地域看護学演習		2		30			
		地域看護学応用実習		2		60			
		地域看護学特別研究		8			60	60	
	保健・医療システム学	保健・医療システム学特論		2	30				
		保健・医療システム学演習		2		30			
		保健・医療システム学応用実習		2		60			
		保健・医療システム学特別研究		8			60	60	
	助産学	助産学特論Ａ-Ⅰ		2	30				
		助産学特論Ａ-Ⅱ		2	30				
		助産学特論Ａ-Ⅲ		2	30				
		助産学演習Ａ-Ⅰ		2		30			
		助産学演習Ａ-Ⅱ		3	45				
		助産学応用実習Ａ		2			60		
		助産学特論Ｂ-Ⅰ		2	30				
		助産学特論Ｂ-Ⅱ		2	30				
		助産学演習Ｂ-Ⅰ		2		60			
		助産学演習Ｂ-Ⅱ		2	60				
		助産学演習Ｂ-Ⅲ		3	90				
		助産学演習Ｂ-Ⅳ		3	90				
		助産学演習Ｂ-Ⅴ		3	90				
		助産学応用実習Ｂ-Ⅰ		9		405			
		助産学応用実習Ｂ-Ⅱ		2	90				
		助産学特別研究		8			60	60	

4. 臨地実習表

1) 看護コミュニケーション実習

平成 30 年 5 月 29 日～7 月 3 日

A クラス（6 月 5 日・19 日・7 月 3 日）				B クラス（5 月 29 日・6 月 12 日・26 日）			
病院	G	学生数	病棟（教員）	病院	G	学生数	病棟（教員）
静岡市立静岡病院	1	6 名	東 6 階病棟（管原清子）	**静岡市立静岡病院**	11	6 名	東 6 階病棟（管原清子）
	2	6 名	西 6 階病棟（管原清子）		12	6 名	西 6 階病棟（管原清子）
	3	6 名	西 7 階病棟（管原清子）		13	6 名	西 7 階病棟（管原清子）
	4	6 名	西 8 階病棟（管原清子）		14	6 名	西 8 階病棟（管原清子）
	5	6 名	西 9 階病棟（管原清子）		15	6 名	西 9 階病棟（管原清子）
静岡赤十字病院	6	6 名	3-3 病棟（荒井孝子・山口みのり）	**静岡赤十字病院**	16	6 名	3-3 病棟（荒井孝子・山口みのり）
	7	6 名	3-4 病棟（荒井孝子・山口みのり）		17	6 名	3-4 病棟（荒井孝子・山口みのり）
	8	6 名	3-7 病棟（荒井孝子・山口みのり）		18	6 名	3-7 病棟（荒井孝子・山口みのり）
	9	6 名	3-8 病棟（荒井孝子・山口みのり）		19	6 名	3-8 病棟（荒井孝子・山口みのり）
	10	6 名	3-9 病棟（荒井孝子・山口みのり）		20	6 名	3-9 病棟（荒井孝子・山口みのり）

総学生数 120 名

2） アセスメント実習

平成 30 年 9 月 11～21 日、10 月 11・18・25、11 月 1・8・15 日

1 クール （9 月 11～14 日、10 月 11・25 日、11 月 8 日）				2 クール （9 月 18～21 日、10 月 18 日、11 月 1・15 日）			
病院	G	学生数	病棟（教員）	病院	G	学生数	病棟（教員）
静岡赤十字病院	1	5 名	9 月 11～14 日 3-3（山口みのり） 10 月 11・25 日、11 月 8 日 3-3（荒井孝子）	静岡赤十字病院	11	6 名	9 月 18～21 日 3-3（山口みのり） 10 月 18 日、11 月 1・15 日 3-3（荒井孝子）
	2	6 名	9 月 11～14 日 3-3（山口みのり） 10 月 11・25 日、11 月 8 日 3-3（荒井孝子）		12	5 名	9 月 18～21 日 3-4（山口みのり） 10 月 18 日、11 月 1・15 日 3-4（荒井孝子）
	3	6 名	9 月 11～14 日 3-6（倉本直樹） 10 月 11・25 日、11 月 8 日 3-6（荒井孝子）		13	6 名	9 月 18～21 日 3-6（倉本直樹） 10 月 18 日、11 月 1・15 日 3-6（荒井孝子）
	4	6 名	3-7（荒井孝子）		14	6 名	3-8（荒井孝子）
	5	5 名	3-8（荒井孝子）				
静岡県立総合病院	6	5 名	9 月 11～14 日 3E（永谷幸子） 10 月 11・25 日、11 月 8 日 3E（操華子・永谷幸子）	静岡県立総合病院	15	6 名	9 月 18～21 日 3E（永谷幸子） 10 月 18 日、11 月 1・15 日 3E（操華子・永谷幸子）
	7	6 名	9 月 11～14 日 4A（永谷幸子） 10 月 11・25 日、11 月 8 日 4A（操華子・永谷幸子）		16	6 名	9 月 18～21 日 4A（永谷幸子） 10 月 18 日、11 月 1・15 日 4A（操華子・永谷幸子）
	8	5 名	9 月 11～14 日 5G（操華子） 10 月 11・25 日、11 月 8 日 5G（操華子・永谷幸子）		17	6 名	9 月 18～21 日 5G（操華子） 10 月 18 日、11 月 1・15 日 5G（操華子・永谷幸子）
	9	6 名	9 月 11～14 日 6A（管原清子） 10 月 11・25 日、11 月 8 日 6A（操華子・永谷幸子）		18	6 名	9 月 18～21 日 6A（管原清子） 10 月 18 日、11 月 1・15 日 6A（操華子・永谷幸子）
	10	5 名	9 月 11～14 日 6C（管原清子） 10 月 11・25 日、11 月 8 日 6C（操華子・永谷幸子）		19	6 名	9 月 18～21 日 6C（管原清子） 10 月 18 日、11 月 1・15 日 6C（操華子・永谷幸子）

学生数：111 名　　実習総責任者（統括）：荒井孝子

3)　老年看護学実習Ⅰ

平成 31 年 2 月 12 日～平成 31 年 3 月 1 日

実習期間		2 月 12 日 ～2 月 15 日		2 月 18 日 ～2 月 22 日		2 月 26 日 ～3 月 1 日	
施設	担当教員	G	学生数	G	学生数	G	学生数
介護老人保健施設 こみに	下吹越直子					12	5 名
						13	5 名
介護老人保健施設 ケアセンター瀬名	飯塚真樹	1	7 名	7	7 名	14	7 名
		2	7 名	8	7 名	15	7 名
介護老人保健施設 星のしずく	非常勤 （下吹越直子）	3	6 名	9	6 名	16	6 名
		4	6 名	10	6 名	17	6 名
介護老人保健施設 ケアセンター池田の街	下吹越直子	5	8 名	11	6 名		
介護老人保健施設 エスコートタウン静清	安田真美 （非常勤）	6	6 名				

学生数：108 名

4)　3年次後期臨地実習配置表

G	人数	9月			10月						11月				12月				1月					2月			
		1クール			2クール		3クール		4クール			5クール		6クール		7クール				8クール		9クール		10クール		11クール	
		4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5	12	19	26
		～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～
		8	15	22	29	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	2	9	16	23	3/2
1	6	公衆衛生Ⅰ 富士宮市 望月			老年 瀬名・3F 静清RH 非常勤		在宅 STみかど台 白萩 つばさ 酒井・非常勤		成人Ⅱ 静岡日赤 3―8 影山			成人Ⅰ てんかん・神経 医療 A2A6 影山				小児 県立こども 鈴木和 非常勤					母性 県立総合 3D 石川		精神 滞口4F 作業所 近藤				
2	6	公衆衛生Ⅰ 富士宮市 深江			老年 小鹿・C 静岡RH 安田		在宅 つどいのおかST STあおむし 桜ケ丘 てんかん通園 今福		成人Ⅱ 県立総合 4E5A 飯塚			成人Ⅰ 県立総合 4D5B 糸川		小児 県立こども 鈴木和 非常勤							母性 静岡日赤 6-1 高木		精神 滞口3F 作業所 遠藤				
3	6	成人Ⅰ てんかん・神経 医療 A2A6 前野			老年 小鹿・A 甲賀 石垣		公衆衛生Ⅰ 長田 今磯		在宅 STみかど台 てんかん・神経 医療 つばさ 酒井・非常勤					成人Ⅱ 済生会 S3 石切山		小児 県立こども 鈴木和 非常勤					精神 滞口2F 作業所 近藤		母性 静岡日赤 6-1 高木				
4	6	母性 静岡日赤 6-1 高木			老年 瀬名・北 静岡RH 石川		公衆衛生Ⅰ 長田 安藤		在宅 STあみ 桜ケ丘 ライラック 今福			成人Ⅱ がんセンター 10西8東6西 青木		小児 県立こども 鈴木和 非常勤		成人Ⅰ 県立総合 4G5G 前野					精神 滞口1F 作業所 遠藤						
5	6	母性 焼津市立 3A 永谷			小児 県立こども 鈴木和 非常勤		老年 瀬名・2F 静岡RH 非常勤		公衆衛生Ⅰ 東部 佐藤					精神 県立こころ南1 作業所 村方		成人Ⅰ てんかん・神経 医療 A2A6 影山					成人Ⅱ 県立総合 4A5A 鈴木琴		在宅 STしずおか 桜ケ丘 いこい 酒井				
6	6	母性 県立総合 3D 石川			公衆衛生Ⅰ 蒲原 杉山		老年 小鹿・B 甲賀 石垣		小児 県立こども 鈴木和 非常勤			在宅 STマザー STふれあい てんかん・神経医療 てんかん通園 今福		精神 滞口2F 作業所 長澤		成人Ⅰ 県立総合 4B4D 飯塚			成人Ⅱ 済生会 S5 影山						
7	6	小児 県立こども 鈴木和 非常勤			公衆衛生Ⅰ 蒲原 岩本		老年 瀬名・北 静岡RH 石川		成人Ⅰ てんかん・神経 医療 A2A6 前野			成人Ⅱ 静岡日赤 2―6 飯塚		在宅 ST清水 桜ケ丘 いこい 酒井		精神 滞口2F 作業所 近藤							母性 済生会 N3N4 永谷			
8	6	老年 小鹿・B 甲賀 石垣			公衆衛生Ⅰ 南部 今磯		成人Ⅱ がんセンター 7西6西5西 鈴木琴		小児 県立こども 鈴木和 非常勤			在宅 ST駿河 白萩 つばさ 田中		母性 済生会 N3N4 永谷		精神 滞口3F 作業所 遠藤					成人Ⅰ 県立総合 5G6C 糸川						
9	6	老年 瀬名・2F 静岡RH 石川			母性 県立総合 3D 石川		公衆衛生Ⅰ 清水 杉山		小児 県立こども 鈴木和 非常勤			精神 滞口3F 作業所 村方		在宅 ST駿河 白萩 つばさ 田中		成人Ⅱ 静岡日赤 3―8 田中					成人Ⅰ 県立総合 4B4G 前野						
10	6	老年 小鹿・A 静岡RH 安田			母性 藤枝市立 4A 永谷		公衆衛生Ⅰ 清水 岩本		精神 県立こころ北1 作業所 近藤					成人Ⅱ 静岡日赤 2―5 糸川		在宅 ST清水 桜ケ丘 つばさ 田中					小児 県立こども 藤枝市立 鈴木和 非常勤		成人Ⅰ 県立総合 4D5B 糸川				

9月19日（火）　リハパーク実習　重心施設・医療機関オリエンテーション（在宅）

11月7日（火）　リハパーク実習　重心施設・医療機関オリエンテーション（在宅）

1月5日（金）　リハパーク実習　重心施設・医療機関オリエンテーション（在宅）

G	人数	9月			10月						11月				12月				1月					2月			
		1クール			2クール		3クール		4クール			5クール		6クール		7クール				8クール		9クール		10クール		11クール	
		4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5	12	19	26
		～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～
		8	15	22	29	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	2	9	16	23	3/2
11	6	老年 瀬名・3F 静清RH 非常勤			公衆衛生Ⅰ 南部 望月				母性 市立静岡 西4 福島			精神 溝口4F 作業所 近藤		成人Ⅰ 静岡日赤 3－9 飯塚		在宅 曲金ST 桜ケ丘 てんかん通園 冨安・非常勤				小児 県立こども 藤枝市立 鈴木和 非常勤		成人Ⅱ がんセンター 10東7西5西 青木					
12	6	成人Ⅰ 県立総合 4G5G 木元			精神 県立こころ南2 作業所 長澤		母性 藤枝市立 4A 福島		公衆衛生Ⅰ 東部 安藤			老年 山の上 本館3F西館3F 非常勤		在宅 曲金ST 桜ケ丘 てんかん通園 今福・非常勤		成人Ⅱ 済生会 S3 石切山				小児 県立こども 藤枝市立 鈴木和 非常勤							
13	6				成人Ⅱ 県立総合 4E5A 前野		小児 県立こども 鈴木和 非常勤		母性 焼津市立 3A 永谷			公衆衛生Ⅰ 焼津市 杉山		精神 溝口1F 作業所 遠藤		老年 山の上 本館3F西館3F 石川				成人Ⅰ 済生会 S9 飯塚				在宅 STしずおか 桜ケ丘 いこい 酒井			
14	6	精神 県立こころ北2 作業所 長澤			在宅 STJ駿河 白萩 ライラック 田中		成人Ⅰ 済生会 S10 影山		老年 小鹿・C 静清RH 非常勤			公衆衛生Ⅰ 焼津市 望月		母性 市立静岡 西4 高木		成人Ⅱ 県立総合 4A5A 鈴木琴						小児 県立こども 鈴木和 非常勤							
15	6	精神 溝口1F 作業所 遠藤			成人Ⅰ てんかん・神経医療 A2A6 糸川		小児 県立こども 鈴木和 非常勤		老年 小鹿・A 静岡RH 石垣			公衆衛生Ⅰ 牧之原市 佐藤・深江				母性 県立総合 3D 石川				在宅 STみかど台 桜ケ丘 つばさ 酒井・非常勤		成人Ⅱ 県立総合 3E4E 飯塚					
16	5	精神 溝口4F 作業所 近藤			成人Ⅰ 県立総合 4D5B 石切山		小児 県立こども 鈴木和 非常勤					公衆衛生Ⅰ 牧之原市 岩本		成人Ⅱ がんセンター 10東7西5西 青木		母性 静岡日赤 6-1 高木				老年 山の上・西館 2F 静岡リウマチ 石垣				在宅 STほたる 白萩 つばさ 田中・非常勤			
17	6	小児 県立こども 鈴木和 非常勤			成人Ⅱ 静岡日赤 2－5 影山		成人Ⅰ 静岡日赤 3－6 山田(紋)		精神 県立こころ南1 作業所 遠藤			母性 市立静岡 西4 福島		公衆衛生Ⅰ 島田市 深江		老年 山の上・西館 2F 静岡リウマチ 石垣						在宅 STふれあい つどいのおか ST 桜ケ丘 てんかん通園 今福・非常勤					
18	6	小児 県立こども 鈴木和 非常勤			精神 県立こころ南1 作業所 村方		成人Ⅱ がんセンター 10西10東8東 石切山		成人Ⅰ 静岡日赤 3－6 山田(紋)			老年 小鹿・B 静岡リウマチ 石垣		公衆衛生Ⅰ 島田市 安藤		母性 済生会 N3N4 福島				在宅 ST清水 てんかん・神経医療 てんかん通園 田中							
19	6	成人Ⅱ がんセンター 10西10東8東 石切山			小児 県立こども 鈴木和 非常勤		精神 県立こころ南2 作業所 遠藤		成人Ⅰ 県立総合 5B6C 鈴木琴			老年 山の上・西2F 静清RH 石川		公衆衛生Ⅰ 吉田町 今磯						母性 済生会 N3N4 福島		在宅 STほたる 白萩 つばさ 冨安・非常勤					
20	6	成人Ⅱ がんセンター 7西6西5西 田中			小児 県立こども 鈴木和 非常勤		精神 県立こころ北2 作業所 近藤		成人Ⅰ 静岡日赤 2－7 石切山			在宅 STあみ 桜ケ丘 いこい 酒井・非常勤		公衆衛生Ⅰ 吉田町 望月		母性 焼津市立 3A 永谷				老年 山の上・本館 3F 静清RH 非常勤							
21	6	公衆衛生Ⅰ 富士市 安藤			在宅 STあみ てんかん・神経医療 てんかん通園 今福		母性 市立静岡 西4 高木		老年 山の上・西館 2F 静岡RH 石川			精神 県立こころ北1 作業所 長澤				成人Ⅰ 静岡日赤 3－6 山田(紋)				成人Ⅱ がんセンター 10西8東6西 石切山		小児 県立こども 鈴木和 非常勤					

9月19日(火) リハパーク実習 重心施設・医療機関オリエンテーション（在宅）

11月7日(火) リハパーク実習 重心施設・医療機関オリエンテーション（在宅）

1月5日（金） リハパーク実習 重心施設・医療機関オリエンテーション（在宅）

編入	5		公衆衛生Ⅰ 富士市 岩本、深江
編入	5		公衆衛生Ⅰ 富士市 佐藤、深江

総学生数 135 名

5)　成人看護学実習Ⅲ

病棟施設		日程	G	チーム	人数	教員
静岡赤十字病院	2-5	6月11日～6月15日	1	A	3名	木元千奈美
				B	3名	
	2-6		2	A	3名	山田紋子
				B	3名	
	2-7		3	A	3名	糸川紅子
				B	3名	
	3-5		4	A	3名	飯塚真樹
				B	3名	
	3-6		5	A	3名	影山葉子
				B	3名	
	2-5	6月18日～6月22日	6	A	3名	木元千奈美
				B	3名	
	2-6		7	A	3名	山田紋子
				B	3名	
	2-7		8	A	3名	糸川紅子
				B	3名	
	3-5		9	A	3名	飯塚真樹
				B	3名	
	3-6		10	A	3名	影山葉子
				B	3名	
	2-5	7月2日～7月6日	11	A	4名	木元千奈美
			12	A	3名	石切山千恵
				B	3名	
	2-6		13	A	3名	前野真由美
				B	3名	
	2-7		14	A	3名	飯塚真樹
				B	3名	
	3-5		15	A	3名	影山葉子
				B	3名	
	3-6					
	2-5	7月9日～7月13日	16	A	4名	木元千奈美
	2-6		17	A	3名	石切山千恵
				B	3名	
	2-7		18	A	3名	前野真由美
				B	3名	
	3-5		19	A	3名	飯塚真樹
				B	3名	
	3-6		20	A	3名	影山葉子
				B	3名	
	3-7		21	A	3名	青木和惠
				B	3名	

施設	日程	G	チーム	人数	教員
シミュレーション実習	6月11日～6月15日	11	A	4名	田中範佳 鈴木琴江
		7	A	3名	
			B	3名	
		8	A	3名	
			B	3名	
		9	A	3名	
			B	3名	
		10	A	3名	
			B	3名	
	6月18日～6月22日	1	A	3名	
			B	3名	
		2	A	3名	
			B	3名	
		3	A	3名	
			B	3名	
		4	A	3名	
			B	3名	
		5	A	3名	
			B	3名	
	7月2日～7月6日	16	A	3名	
		17	A	3名	
			B	3名	
		18	A	3名	
			B	3名	
		19	A	3名	
			B	3名	
		20	A	3名	
			B	3名	
		21	A	3名	
			B	3名	
	7月9日～7月13日	6	A	3名	
			B	3名	
		12	A	3名	
			B	3名	
		13	A	3名	
			B	3名	
		14	A	3名	
			B	3名	
		15	A	3名	
			B	3名	

成人看護学実習Ⅲ責任者：山田紋子

6） 公衆衛生看護学実習Ⅱ（行政・学校・産業）

公衆衛生看護学実習Ⅱ（行政）

保健所	施設	学生数	実習期間			
			5月21日～6月1日	6月4日～6月15日	6月18日～6月29日	7月2日～7月13日
富士保健福祉センター	富士市保健センター	6名	安藤継子			
	富士宮市保健センター	6名	岩本真弓			
中部健康福祉センター	焼津市保健センター	6名	望月友美子			
	島田市保健福祉センター	6名	佐藤瑠美			
	吉田町保健センター	6名		佐藤瑠美		
	牧之原市総合健康福祉センター	6名				岩本真弓
静岡市保健所	城東保健福祉センター	5名				佐藤瑠美
	東部保健福祉センター	5名			安藤継子	
	南部保健福祉センター	5名		安藤継子		
	蒲原保健福祉センター	5名		杉山眞澄		
	清水保健福祉センター	5名				深江久代
	大里保健福祉センター	5名			岩本真弓	

学生数：66名

公衆衛生看護学実習Ⅱ（産業）

	施設	学生数	実習期間			
			5月21日～6月1日	6月4日～6月15日	6月18日～6月29日	7月2日～7月13日
事業所	三菱電機株式会社 静岡製作所	12名	今磯純子			安藤継子
	JR東海 健康管理センター 静岡健康管理室	8名		今磯純子		望月友美子
	スズキ株式会社 相良工場	4名			望月友美子	
	ジヤトコ株式会社 富士第1地区健康サポート室	10名		望月友美子	今磯純子	

学生数：34名

公衆衛生看護学実習Ⅱ（学校）

	施設	学生数	実習期間			
			5月21日～6月1日	6月4日～15日	6月18日～29日	6月18～22日、7月9～13日
学校	静岡市立高松小学校 県立中央特別支援学校	4名	杉山眞澄			
	静岡市立森下中学校 県立清水特別支援学校	4名		岩本真弓		
	静岡市立東豊田小学校 県立北特別支援学校	4名			佐藤瑠美	
	静岡市立千代田小学校 県立静岡南部特別支援学校	4名				杉山眞澄
	児童心理治療施設 静岡県立吉原林間学園	12名	7月20日			
			杉山眞澄・岩本真弓・佐藤瑠美			

学生数12名　　総責任者：深江久代

7）　国際保健・看護学実習

	施設	学生数	実習期間
			8月20日～8月31日
	コンケン大学	3名	今磯純子

8)　大学院修士課程助産学分野　助産学関連実習

科目	学年	実習期間	実習施設	学生人数	担当教員
助産学演習 A-Ⅱ（妊婦健康診査実習）	1	6/25～7/27（2 回火・木/週）	焼津市立総合病院	2	中川有加
			静岡県立総合病院	2	太田尚子 大和田裕美
			静岡赤十字病院	2	藤田景子
助産学演習 B-Ⅴ（助産準備実習）	1	9/25～10/5（2 週間）	焼津市立総合病院	2	中川有加
			静岡県立総合病院	2	太田尚子 大和田裕美
			静岡赤十字病院	2	藤田景子
助産学応用実習 B-Ⅰ	1	10/9～12/7（9 週間） ＊静岡県立総合病院は、12/27 まで延長	焼津市立総合病院	2	中川有加
			静岡県立総合病院	2	太田尚子 大和田裕美
			静岡赤十字病院	2	藤田景子
助産学演習 B-Ⅱ（NICU 実習）	2	9/3～9/7（4 日間）	聖隷浜松病院	1	太田尚子
	1	1/28～2/1（4 日間）	静岡済生会総合病院	2	太田尚子 大和田裕美
			聖隷浜松病院	1	藤田景子
			静岡県立こども病院	2	中川有加
助産学応用実習 B-Ⅱ	1	8 月下旬～9 月中旬（うち 12 日）	くさの助産院	1	藤田景子
		8 月下旬～9 月中旬（うち 9 日）	渡辺助産院	2	太田尚子
		8 月下旬～9 月中旬（うち 9 日）	エスアールハウス	1	中川有加
		8 月下旬～9 月中旬（うち 9 日）	おしか助産院	2	太田尚子 大和田裕美
助産学応用実習 A	2	6 月～7 月（うち 14 日）	くさの助産院	1	藤田景子
		6 月～7 月（うち 16 日）	渡辺助産院	2	太田尚子
		6 月～7 月（うち 12 日）	エスアールハウス	1	中川有加
		6 月～7 月（うち 20 日）	おしか助産院	2	太田尚子 大和田裕美

実習総責任者　太田尚子

5. 学生の研究

1) 学部の指導体制と研究テーマ

昨年度と同様に教員の学生担当数は、専門基礎領域、基礎看護学領域、成人看護学領域、国際看護学は教員ごと、それ以外の看護学領域は領域ごとに設定し、教員および学生の卒業研究調整委員ができるだけ希望に添うように調整した。看護学領域の教員ごとの担当学生は領域内で調整した。指導教員の指導の下に学生は、約 1 年かけて研究テーマを追求し論文としてまとめた。結果、表 4－2－1 にあげた卒業研究が提出された。その研究要旨は、「平成 30 年度卒業論文要旨集」として発刊し、臨地実習施設ならびに臨地実習機関等に配布した。

表 4-2-1　平成 30 年度看護学部卒業研究題目一覧

学籍番号	氏　　名	卒 業 研 究 題 目	指導教員
1415022	太田　将平	食行動における発達障害児の特性（こだわり行動や多動、不注意）と親の関わりとの関連	高林ふみ代
1415029	鍵山　桃子	妊娠期から産後の時期別にみたうつ傾向に関連する要因	山田貴代
1415033	川口　春城	精神疾患を有する患者の家族に対する看護介入に関する文献検討 ～短期入院、長期入院における家族看護に焦点を当てて～	近藤美保
1415051	重田　一樹	Refugee support staff's perceptions of physical, mental and social health problems in the U.S.	根岸まゆみ
1415069	高田　純太郎	小児がん患児に対するピアサポートの現状と効果に関する文献検討	山下早苗
1415101	堀川　詩織	心臓手術を受ける患者の術前と術後の精神状態とその看護援助	飯塚真樹
1415113	村松　優太	終末期がん患者と家族の療養場所に関連した意思決定支援の文献検討	山田紋子 影山葉子
1415120	吉田　順紀	在留インドネシア人男性の就労経験とメンタルヘルスに関する文献レビュー	根岸まゆみ
1515001	青山　史果	非がん性慢性疼痛の緩和に有効な看護介入に関する文献検討	操華子
1515002	明石　叶奈	非薬物療法による不眠症状に対する効果と不眠予防についての文献レビュー	村方多鶴子
1515003	安形　玲美	睡眠障害を呈する認知症高齢者への介入方法と効果についての文献検討	下吹越直子
1515004	秋山　楓	経口抗がん薬治療を受ける患者とその家族の曝露対策について	高林ふみ代
1515005	天野　加奈子	神経難病患者の苦悩緩和のための看護援助 ～患者の思いと Spiritual pain に焦点を当てて～	糸川紅子
1515006	天野　優奈	母親がダウン症児を出産してから退院するまでの期間に看護者に期待するケアニーズ	山下早苗
1515007	飯田　菜摘	家族の満足な在宅看取りにつながる看護支援～終末期がん患者を看取った家族に焦点を当てて～	酒井知子

1515008	飯田　有那	死産を経験した母親の次子妊娠および出産時の体験・思い・ケアニーズに関する文献検討	中川有加
1515009	石井　香帆	慢性的な統合失調症である患者の意思決定や自己表現を支援する介入についての文献検討	長澤利枝
1515010	石井　菫	緊急帝王切開術で出産した初産婦の心理状態とその看護ケア	石川紀子
1515011	石井　桃佳	虚血性心疾患患者が経験する発症前の生活から退院後の生活までの心理過程に関する文献検討	前野真由美
1515012	石井　萌々菜	パーキンソン病在宅療養者の家族の困難感について	酒井知子
1515013	石原　香澄	神経難病を持つ人々の在宅療養を支える介護者が抱える負担と支援について	深江久代 岩本真弓
1515015	今井　梨紗子	幼児期の肥満に関連する生活習慣の文献検討	安藤継子 今磯純子
1515016	今瀬　愛理	ALS 患者が辿る心理的プロセスと看護支援についての文献検討	深江久代 岩本真弓
1515017	岩ヶ谷　あゆ美	0～2 歳の子どもが医療処置を受ける際の看護師による人権支援の実態に関する文献検討	山下早苗
1515018	岩瀬　琴美	終末期がん患者の看取りに関する代理意思決定をした家族の困難	糸川紅子
1515019	植野　なつめ	アロマオイルは試験勉強の際に集中力を高めてくれるのか	金澤寛明
1515020	海野　愛恵	子育て中の保護者を対象にした医療用語の認知と理解に関する調査	濱井妙子
1515021	榎本　佳那	児が NICU に入院して母子分離となった母親の心理と NICU における母親に対する心理ケアに関する文献検討	太田尚子
1515022	大石　美咲	障害児の母親が子どもを受容するきっかけに関する文献検討	鈴木和香子
1515024	太田　菜月	超高齢者の在宅療養におけるエンドオブライフケアの内容　―訪問看護支援に焦点を当てて―	冨安眞理
1515025	大瀧　奈津美	透析患者が自己管理を行うための効果的な看護介入に関する文献検討 ―自己管理が困難な場合に対する自己管理を促進する介入から―	前野真由美
1515026	大塚　日菜子	がん告知ががん患者の配偶者に及ぼす心理的影響に関する文献検討	石切山千恵
1515027	大坪　礼	血液透析患者と腹膜透析患者の QOL に関する文献検討	操華子
1515028	大沼　夢	国内看護文献にみる終末期がん患者とその家族の相互作用によって生じた思い	山田紋子 影山葉子
1515029	大村　有紀	ストーマ造設患者の受容における看護師の役割	青木和惠
1515030	岡下　真弓	国内の文献にみる脳卒中患者が抱えるコミュニケーション障害に対する支援	山田紋子 影山葉子

1515031	荻野　瑞生	意思表出困難な高齢者と家族の意思を尊重した意思決定支援のあり方 ―AHN（人工的水分・栄養補給法）の選択に焦点を当てて―	安田真美
1515032	笠井　美晴	就業志向を持つ母親のニーズと社会支援の実際	中川有加
1515033	柏木　咲良	人工肛門造設患者がストーマセルフケア能力を獲得するための皮膚・排泄ケア認定看護師の役割	青木和惠
1515034	片岡　里菜	ユマニチュード実践による認知症高齢者と家族介護者への支援の検討 ―認知症高齢者と家族介護者の関係性変化に着目して―	安田真美
1515035	加藤　愛望	手術を受ける患者の術前不安を軽減するアプローチ方法とその有効性	飯塚真樹
1515036	加藤　結	重症心身障害児者のきょうだいの育児における母親の悩みに関する文献検討	安藤継子 今磯純子
1515037	神村　玲奈	子どもの入院に付き添う家族の負担に関する文献検討	鈴木和香子
1515038	河上　明日香	特定保健指導の積極的支援対象である男性の体重減少に関連する要因についての文献研究	今磯純子 安藤継子
1515040	北林　ゆうな	ストレスチェック制度における施行後の現状と課題	望月友美子 杉山眞澄
1515041	金原　史佳	障害孤児に対する看護の役割に関する文献レビュー	根岸まゆみ
1515042	日下部　将宏	終末期がん療養者の望む生き方と支援に関する文献検討	今福恵子
1515043	小池　見桜	抗原応答増悪作用を示す多環芳香族化合物の探索とその評価	三﨑健太郎
1515044	後藤　花織	VR（virtual reality）を活用したICU術前オリエンテーション媒体の作成と評価	永谷幸子
1515045	後藤　舞子	患者参画型手指衛生教育後の手指汚染の評価	操華子
1515046	小林　華穂	患者の術前不安に対する術前教育の有効性：メタ分析	田中範佳
1515047	近藤　綾香	児童虐待予防に効果的な保健師の活動について～父親への支援に焦点を当てて～	佐藤瑠美
1515048	齋竹　ひなの	認知機能に対する大気汚染物質の影響に関する研究	三﨑健太郎
1515049	坂下　和也	がん患者の心理的適応に影響を及ぼす要因に関する文献検討	永谷幸子
1515050	薩川　弥芳	発汗と脈拍数によるストレス変化評価の試み	金澤寛明
1515051	佐藤　未来	行動制限を行う精神科看護師が抱くジレンマ及び看護介入に関する文献レビュー	村方多鶴子
1515052	佐藤　友希乃	クリティカルケア領域における患者の家族のニーズと家族看護の現状	管原清子
1515053	佐野　真里奈	プレバイオティクスの抗アレルギー効果に対する文献調査	井上健一郎

1515054	塩田　里美	国内看護文献にみる乳がん患者の乳房喪失・変形に伴うボディイメージ変容への思い	山田紋子
1515055	塩見　周平	認知症高齢者を介護する家族の抱える困難について	今福恵子
1515056	静賀　真依	若年筋神経系進行性難病療養者への支援の検討	岩本真弓 深江久代
1515057	四宮　千賀子	無痛分娩を経験した女性が出産体験を肯定的に捉えるに至った要因	石川紀子
1515058	下位　悠実	地域で行われているがん患者支援イベントががん患者の気分に及ぼす影響	管原清子
1515059	新村　亜友璃	国内看護文献にみる手術を受ける乳がん患者の診断から退院までに抱える思い	山田紋子
1515061	杉浦　真智子	「輸液トラブル」に関する分野別文献レビュー	倉本直樹
1515062	鈴木　志乃	アクティブバースをした産婦の出産体験	藤田景子
1515063	鈴木　美沙	高齢者の排泄と転倒転落に関する文献的考察	渡邉順子
1515064	鈴木　萌夏	患者が行動変容を起こすことを目標とした看護的アプローチ	山口みのり
1515065	鈴木　桃夏	成人版表情認知検査を用いた表情認知能力における看護師と看護学生の比較に関する研究	永谷幸子
1515066	鈴木　悠太	大気浮遊物質と呼吸器疾患に関する文献調査研究	井上健一郎
1515067	髙川　久瑠実	若年層母親の不安とニーズに対する看護職の関わりについて	山田貴代
1515068	髙木　由帆	一般病棟の看護師による終末期がん患者の家族支援内容に関する文献検討	石切山千恵
1515069	滝井　茜	誤嚥性肺炎に対する外科的手術の術式の検討	金澤寛明
1515070	竹田　千夏	看護学生の腰痛に関する認識と実習中の腰痛予防行動に関連する要因	鈴木琴江
1515071	田立　萌子	発達障害を持つ人の自尊感情を高める支援方法の検討	近藤美保
1515072	谷澤　南美	妊婦に対する児への愛着形成促進のための看護援助	福島恭子
1515073	辻村　真未	希死念慮のある高校生・大学生の SNS による援助希求行動の実態についての文献検討	篁宗一
1515074	鶴田　陽子	正常者の大脳白質における“白質変化”に関する研究―頸動脈のプラークとの比較―	荒井孝子
1515075	時田　江里	巨大地震が妊産褥婦とその胎児・新生児に及ぼす影響と必要とされる支援	福島恭子
1515077	永井　春華	救急・集中治療領域において患者の代理意思決定を行う家族の思いについての文献検討	木元千奈美
1515078	中川　華奈	開胸・開腹手術を受ける患者の不安軽減に対する術前教育の有効性：メタ分析	田中範佳
1515079	長倉　龍生	全身麻酔にて手術を受けた患者の術後合併症に対する複合的な介入の有効性について：メタ分析	田中範佳
1515080	長倉　実玖	腹膜透析をもつ在宅高齢者と家族への訪問看護支援	冨安眞理
1515081	中嶋　彩乃	胃瘻造設における代理意思決定プロセスに応じた患者家族への支援の文献検討	下吹越直子

1515082	永田　綾里	ユマニチュード実践が認知症高齢者の看護をする看護師にもたらす感情・思考の変化と、認知症高齢者への影響	安田真美
1515083	中野　優子	夫婦ふたり暮らしをしている高齢療養者の在宅生活継続支援 －介護者が認知症を抱える事例での検討－	田中悠美
1515084	中山　光奈	ひきこもりの社会参加を促進する要因について	杉山眞澄
1515085	名取　蘭	ゲーミングの要素を取り入れたデイサービスの利用と満足度に関する実態	篁宗一
1515086	蜂巣　純大	看護師の業務環境および残業に対する認識と残業との関連	鈴木琴江
1515087	日向　瞳	学童期・思春期に摂食障害を発症した患者に対する看護師の効果的なケア方法・内容に関する文献検討	遠藤りら
1515088	平野　真由	終末期患者に対する看護職者の抱く葛藤と対処法についての文献検討	遠藤りら
1515089	広中　千晶	人工肛門造設者の不安に対する皮膚・排泄ケア認定看護師の支援	青木和惠
1515090	深澤　春奈	正常者の大脳白質における“白質変化”に関する研究―経年変化から見た比較―	荒井孝子
1515091	深見　栞	日本人女性のやせの現状および妊娠期の母親のやせが新生児の体重に与える影響についての文献検討	太田尚子
1515092	藤田　瑞希	看護師の年代および経験年数に関連したストレッサーに関する文献レビュー	村方多鶴子
1515093	藤原　朱李	中学生を取り巻く性の現状と家庭性教育に対する支援の実際	太田尚子
1515094	朴　健松	看護学生のヘルスリテラシーに関する実態調査	倉本直樹
1515095	星野　志織	排便に困難を抱える要介護高齢者への訪問看護支援に関する文献検討	田中悠美
1515096	星野　真実	移動介助時におけるスライディングシートが被介助者の心拍数・安楽感に与える影響	渡邉順子
1515097	細川　麻衣	在宅認知症高齢者における家族介護に関する研究動向	下吹越直子
1515098	堀　友紀奈	乳腺炎の重症化予防および再発予防のための助産ケアの実態	藤田景子
1515099	前田　杏	筋萎縮性側索硬化症患者家族の心理状態と支援について	深江久代 岩本真弓
1515100	前田　佳音	産褥早期における足浴が母乳育児に与える影響についての検討	石川紀子
1515101	牧野　莉央	子どもが不慮の事故に遭った時の母親に対する効果的支援の検討 ～うつ病に陥ることなく子どもと向き合うために～	長澤利枝

1515103	又平　美沙	ディーゼル微粒子が気管支喘息を悪化させるメカニズムについての研究	井上健一郎
1515104	松永　由布奈	特定保健指導対象者の行動の変容と継続要因に関する文献検討	今磯純子 安藤継子
1515105	松葉　咲耶花	地域で開催されるがん患者支援イベントへの参加によるがん患者の気分の変化	管原清子
1515106	湊　明音	静岡県在住のフィリピン人医療通訳経験者の活動実態	濱井妙子
1515107	村松　愛莉	アルコール依存症を除く成人期の飲酒者の節酒・断酒に効果的な看護介入についての文献検討	前野真由美
1515108	望月　優大	外来がん化学療法専従看護師の業務内容に伴うストレスとその要因	鈴木琴江
1515109	望月　裕也	終末期がん療養者の家族介護者の介護継続可能な要因についての文献検討	今福恵子
1515110	諸星　友々	看護職者の離職要因とメンタルヘルスの関連―臨床経験年数別比較―	篁宗一
1515111	山下　恵瑠奈	統合失調症の在宅療養者に対する訪問看護師の支援について	酒井知子
1515112	山城　萌	周産期喪失を体験した母親のニーズ―死別の宣告から退院後までの経過に着目して―	福島恭子
1515113	山田　奈々	糖尿病患者の自己効力感高める看護援助に関する文献検討	糸川紅子
1515114	山野　萌音	化学療法における血管外漏出に関する院内ケアマニュアル記載の実態	渡邉順子
1515115	山本　早織	熟練看護師が行う援助の思考過程―個別性のある生活行動援助に焦点を当てて―	山口みのり
1515116	山本　美咲	静岡県内の看護学生を対象にした防災行動の影響要因に関する調査	濱井妙子
1515117	米澤　潤奈	救急看護師の職務継続に影響する要因に関する文献検討	木元千奈美
1515118	龍崎　美桜	復職した看護師にみられる復帰直後の困難	山口みのり
1515119	渡辺　七帆	発達障がいと診断された児を持つ親の障がい受容に関連する要因	望月友美子 杉山眞澄
1515120	渡邉　みか	小児病棟における看護師と保育士の連携に関する文献検討	鈴木和香子
1715121	安藤　由布子	地域包括ケアシステムと地域互助力について～サクセスフルエイジングの視点から見て～	佐藤瑠美
1715122	大泉　まさ子	保健師と保健推進員が協働して活動するための保健師の働きかけについての検討	岩本真弓 深江久代
1715123	河出　沙由美	発達障害者の就労継続に対する関連要因に関する文献検討	今磯純子 安藤継子
1715124	眞田　夏菜	家族介護者の身体介護における介護負担感に影響を及ぼす要因に関する文献検討 ～排泄に関する介護負担に注目して～	杉山眞澄 望月友美子

1715125	鈴木　麻純	ソーシャル・キャピタルが高齢者の介護予防に与える影響	佐藤瑠美
1715126	竹田　志保	とろみ調整剤を用いた酸化マグネシウム錠の簡便で有効な簡易懸濁法の検討	高林ふみ代
1715127	中島　郭実	NICU における保育器内の環境調整と低出生体重・早産児に対するディベロップメンタルケアに関する文献検討	渡邉順子
1715128	櫛島　彩名	女子大学生等の子宮頸がんに対する知識・予防行動の実態と関連要因	杉山眞澄
1715129	山口　喜美代	国際医療協力に従事する医療スタッフのストレスとストレスコーピングについて	長澤利枝
1715130	山本　彩織	フィンランドのネウボラシステムを取り入れている地域の子どもの虐待防止に関する調査研究	渡邉順子

2)　研究科の指導体制と研究テーマ

今年度は、13 名の大学院生より修士論文が提出され、修士論文審査および最終試験を経て 13 名全員が修士課程を修了することとなった。

研究科の指導は、指導教員を中心に、適宜、他領域の教員の協力を得ながら行われた。研究の実施にあたり、病院施設等より多大なるご支援、ご協力を得た。修士論文発表会は、平成 31 年 3 月 4 日（月）の 10 時より、大学院生、学部生、教員および、研究協力施設の関係者など多数の参加を得て開催された。

修了生の氏名、専門分野および論文題目は以下の表のとおりである。

表 3-4-2　平成 30 年度看護学研究科修了生および修士論文題目一覧

氏名	専門分野	研究題目	指導教員
高橋啓介	看護技術学	集中治療領域におけるユニバーサル・グロービング（一律手袋着用）の実態	操華子
赤崎結哉	看護技術学	回復期の脳卒中後うつ患者の排泄自立を目指す看護ケアの実態に関する研究	渡邉順子
高木亜由美	看護技術学	地域で暮らす高齢女性のフレイル改善を目指したマニキュアの効果に関する検証	渡邉順子
石川彩実	看護技術学	クリティカルケア看護師が行うカテコラミン投与の実態に関する研究	渡邉順子
加藤俊枝	助産学	地域における社会的ハイリスクの母親のメンタルヘルスサポートを行う看護職者の体験	篁宗一
佐野朱那	助産学	中学生の息子をもつ父親の性教育に関するニーズ	太田尚子
田中梨穂	助産学	13 トリソミーまたは 18 トリソミーと確定診断された妊婦へのケア	太田尚子

奥田早帆	助産学	母親が出産 1 ヶ月後に出産体験をグループで語る意味	太田尚子
河上由紀恵	助産学	NICU・GCU に入院している早産児の父親のケア・ニーズ	太田尚子
金原汐里	助産学	妊娠期から育児期の在日外国人母親を母子保健専門職につなぐ身近な支援者のニーズ	太田尚子
鈴木綾	助産学	10 代妊婦をエンパワーメントする助産師のケア	太田尚子
髙橋麻未	助産学	早期新生児と死別する過程での母親のケア・ニーズ	太田尚子
増田美柚	助産学	緊急帝王切開を受けた夫婦の出産に対する思い	太田尚子

V. 学生生活

1. 学生定員および在学生数

1) 学部

看護学部の入学定員は 1 年次 120 名、3 年次編入学 10 名であり、収容定員は計 370 名である。過去 3 年間の在籍者数を表 5-1-1 に示した。

表 5-1-1　学部定員および在籍者数

年度	学部定員	在籍者数
H28 年度	435	435
H29 年度	515	501
H30 年度	530	496

表 5-1-2　学部定員および学生数

	1 年生	2 年生	3 年生	3 年編入生	4 年生	4 年編入生	合計
学部定員	120	120	130		65		435
在籍者数	120	128	115	10	52	10	435
休学者数	0	3	1	0	0	0	0
退学者数	2	0	0	0	0	0	0

※在籍者数は 27 年度当初、休学者は 27 年度末、退学者数は 27 年度内の数字

2) 研究科

看護学研究科の入学定員は 16 名、収容定員は 32 名である。H27 年度の在籍者数は、表 5-1-2 に示すとおり、1 年 8 名、2 年 11 名である。

表 5-1-3　研究科定員および在学生数

	1 年生	2 年生	合計
入学定員	16	16	32
在籍者数	7	8	15
休学者数	0	0	0
退学者数	0	0	0

※在籍者数は 27 年度当初、休学者は 27 年度末、退学者数は 27 年度内の数字

2. 入学志願者数および入学者数とその背景

1) 学部

各入学試験志願者数（受験者数）は一般前期 202(193)→ 157(151)、一般後期 139（43）→ 67(19)、社会人入試 11(11) → 8(8)、推薦入試 114(114) → 116(116)、編入学特別選抜 19(17)→ 10(8)であった。一般入試の志願倍率は、約 2 倍と例年の数値に戻り定着した感がある。一方編入学試験における合格者の定員割れに関しては、保健師課程を有しないコースの設定が大きく寄与していたと考察する。

表 5-2-1　平成 30 年度入学志願者数および入学者数

	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般前期	70	157	151	71	67
一般後期	5	67	19	7	7
推薦	45	116	116	45	45
社会人	若干名	8	8	1	1
編入学	25	10	8	6	5
合計	145	358	302	130	125

※県内出身の入学者は 107 名（編入生を除いて）

表 5-2-2　平成 29 年度入学志願者数および入学者数

	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般前期	70	202	193	72	68
一般後期	5	139	43	6	5
推薦	45	114	114	46	46
社会人	若干名	11	11	1	1
編入学	10	19	17	11	10
合計	130	485	378	136	130

※県内出身の入学者は 104 名（編入生を除いて）

2） 研究科

平成 30 年度入試の入学志願者数は看護学研究科の一次募集において 13 名、二次募集において３名であった（延べ 16 名）。選抜区分としては一般選抜での出願者が 15 名で、社会人特別選抜での出願が 1 名であった。今年度に関しては本学看護学部からの出願者が 8 名と多く、それ以外の者については他大学を卒業者または専門学校卒業者（事前資格審査を経た）であった。また一次の合格者の内 1 名の辞退者があったものの、二次の合格者は発表後にいずれも入学手続きを行った。最終的な入学者数は 10 名であった。研究科全体としては志願者数が平成 29 年度よりも減少した。また、平成 30 年度入学者では、助産学を専攻する者が 6 名と平成 29 年度と同様に多かった。

表 4-2-3　研究科の入学志願者数および入学者数とその背景

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
入学志願者	20	12	8	9	21	16
入学者数	13	8	8	7	13	10
（うち社会人特別入学）	(6)	(2)	(5)	(3)	(4)	(1)

3. 卒業・修了生の進路状況

1) 学部

過去 3 年間の卒業後の進路を表 5-3-1 に示した。（平成 30 年 3 月 31 日現在）

表 5-3-1　学部卒業生進路

専門学校の助産師コース等に進学する卒業生については､｢その他※｣にカウントしている。

年度	性別	卒業者数	就職決定者数	就職活動中	その他	採用職種別			施設の場所		進学・留学
						看護師	保健師	その他	県内	県外	
平成28年度	男	1	1	—	0	1	—	—	1	0	—
	女	61	52	—	4	47	4	—	39	13	5
	計	62	53	—	4	48	4	—	40	13	5
平成29年度	男	10	9	—	0	9	—	—	7	2	1
	女	114	104	—	4	92	12	—	73	19	6
	計	124	113	—	4	101	12	—	80	21	7
平成30年度	男	17	17	—	0	17	—	—	13	4	—
	女	115	105	1	5	95	10	—	82	23	4
	計	132	122	1	5	112	10	—	95	27	4

2） 研究科

平成 30 年度の修了生は、13 名である。本年度の修了後の進路状況は、表 5-3-2 に示すとおりである。助産学分野の修了生は助産師に、その他分野は社会人学生が多いため現職である看護師を継続する傾向である。また本年度は、教職を希望する学生も存在する。

表 5-3-2　修了後の進路状況

年度	修了生	採用職種別					進学
		看護師	保健師	助産師	教職	その他	留学
平成 25 年度	7	1	0	2	0	4	0
平成 26 年度	12	1	0	5	3	3	0
平成 27 年度	11	3	0	7	1	0	0
平成 28 年度	7	3	1	3	0	0	0
平成 29 年度	4	1	1	1	0	1	0
平成 30 年度	13	2	0	8	3	0	0

4.　免許・資格などの取得状況

過去 3 年間の新卒者の看護師・保健師・助産師の国家資格取得状況を表 5-3-3 に示した。平成 30 年度の全国合格率は、看護師 99.2%、保健師 89.7%、助産師 100.0%であった。

表 5-3-3 免許・資格などの取得状況

年度	看護師	保健師	助産師
平成 28 年度	52/52	61/62	3/3
	（100.0）	（98.3）	（100.0）
平成 29 年度	114/114	104/114	1/1
	（100.0）	（91.2）	（100.0）
平成 30 年度	121/122	105/117	8/8
	（99.2）	（89.7）	（100.0）

（　）内は合格者数/受験者数の百分率

VI.国際交流

1. 平成 30 年度国際交流等事業

1） インドネシア西ジャワ州訪問

平成 30 年 5 月 29 日から 6 月 2 日まで、インドネシア西ジャワ州にあるパジャジャラン大学との大学間協定を前提にした交流と視察を行った。平成 29 年 11 月に西ジャワ州知事が川勝知事を表敬訪問された際に、本学部を視察され、その後、西ジャワ州知事からパジャジャラン大学を紹介されたことがきっかけである。パジャジャラン大学は、西ジャワ州バンドンにある、1957 年設立の国立の総合大学で、法学・経済学・経営学・医学・数学・自然科学・農学・人文科学・社会学・政治学・薬学・看護学などの専門分野を擁する。

本学の奥村副学長、教育研究推進部長兼広報・企画室長と本学部の国際看護領域の教員 2 名（渡邉教授・根岸講師）の計 4 名がパジャジャラン大学（主に看護学部）視察し、新カリキュラムにおける国際保健・看護実習の実施場所として可能であるか、パジャジャラン大学看護学部の教員と話し合い、実習・演習施設を見学した。他に、ハサン・サドキン市立病院視察、川勝知事立ち合いのもと行ったパジャジャラン大学との趣意書署名、同大学日本語学科学生との交流、西ジャワ州知事表敬訪問も行った。

パジャジャラン大学看護学部長ほか教員と

パジャジャラン大学との趣意書署名式

2） 第 4 回 静岡県立大学看護学部とコンケン大学看護学部間の短期交換留学事業(コンケン大学看護学部生の受け入れ)

平成 30(2018)年度の短期交換留学事業として、平成 30 年 6 月 15 日から 6 月 28 日までコンケン大学看護学部の 2 年生 2 名（Ms. Kanokruethai Yamsopha、Ms. Sirithon Phuengphonphrom）を受け入れた。宿泊施設は、昨年同様に静岡県職員研修施設であるもくせい会館、ならびに、ホームステイを組み合わせた。今年度は、昨年度と同様のホストファミリー１件と新たなホストファミリー1 件が、留学生を計 8 日間引き受けてくださった。大学のホストファミリー登録の手続きの流れは昨年度と同様である。

本事業の主担当は基礎医学領域の濱井講師と国際看護学領域の根岸講師であるが、看護学部教員全員で取り組む学部の事業である。効果的なプログラムを作成するために、看護学部各領域に協力を得た。全領域からの協力のもと、次のプログラム内容を実施した。①学内の講義・演習：日本の医療・介護保険システムに関する解説・討議、ヘルス・アセス

メント演習見学、母性看護学演習の見学など、②実習施設訪問・実習参加：がんセンター、介護老人保健施設設、訪問看護ステーション、小児病院、精神科病院、小規模多機能型居宅生活介護施設の見学、認知症を対象にしているグループホーム、デイサービス、脊髄損傷症例の在宅リハビリ、産業看護施設、③学生・教員との文化交流：日本とタイの医療・介護制度に関する情報交換（国際保健・看護実習の履修生 3 名によるプレゼンテーションとコンケン学生との討論）含む、④交換留学の報告会。留学生はタイと日本の医療システム、医療技術、 各専門分野の看護ケアを比較しながら、多くのことを学んでいた。

コンケン大留学生の老健施設での実習風景　　文化交流・歓迎会

3） コンケン大学看護学部教員の視察受け入れ

平成 30 年 7 月 25 日、来学したコンケン大学教員 12 名の研修訪問を受け入れた。事務・図書館棟の第二会議室にて名刺交換、本学からの記念品を贈与し、金澤学部長による本校紹介のプレゼンテーションを行った。その後、キャンパスツアーを行い、看護棟 3 階実習室で行われていた災害看護演習や、院生による助産学演習、さらに 2 階のシミュレーションセンターで行われていた成人看護演習において、コンケン大教員と本学部教員・学生（4 年生）への質疑応答や写真撮影などの交流を図った。15 時より看護学部棟 1 階カレッジーホールにて、コンケン大教員 12 名と本学部教員・大学院生（計 12 名）との交流会を開催した。コンケン大学看護学部副学部長の Dr. Nilawan による大学紹介（DVD ほか）、参加者自己紹介を行い、各教員の研究について、日・タイの看護の実際、また今後の研究コラボレーションについてディスカッションをした。最後にコンケン大学から、交流会に参加した本学部教員・院生への記念品が贈与された。

4） 米国オレゴン州ポートランド州立大学ほか施設とポートランド大学の視察

平成 30 年 9 月 12 日から 9 月 24 日まで、新カリキュラムにおける国際保健・看護実習の短期プログラム構築と COIL プロジェクト開始準備のため、国際看護学領域の教員 2 名（渡邉教授・根岸講師）が米国オレゴン州のポートランド州立大学（Portland State University, PSU）、ほか施設の視察とポートランド大学看護学部の訪問と COIL 会議を行った。訪米中には、発展看護実習 II（国際看護）を履修する 4 年生 1 名（重田一樹）が、ポートランド市内の移民・難民支援センターでの実習と卒業研究のデータ収集も行ったため、実習前準備を指導教員（根岸）は 2 週間弱の滞在となった。

PSU の国際交流課では、Jeff Baffaro 氏（Director of International Special Programs）

と真澄リント氏（Program Manager）と渡邉教授と根岸講師が国際保健・看護実習に関する会議を行った。Baffaro 氏は平成 29 年 12 月に本学部を訪問し本件の第一回会議を行ったこともあり、前回の課題を含めた建設的な話し合いができた。真澄リント氏は、本学国際関係学部の卒業生であり大変協力的であった。その後、ポートランド市内の移民・難民支援センター内の視察と実習会議を行った。

ポートランド大学では、看護学部長（Dr. Casey Shillam）と看護教員（Dr. Laura Mood）と渡邉教授、根岸講師が COIL 授業の可能性について話し合いを行い、平成 31 年 1 月に本学部の「国際看護論」で COIL 授業を行うことを決定した。その後のキャンパスツアーには、本学部生の重田も参加した。

渡邉教授、根岸講師と学生の重田は、マグネット病院である Providence St. Vincent Medical Center（ER、癌病棟ほか）、遠方からの小児患者・家族を支援する宿泊施設の Ronald McDonald House を見学。根岸講師と重田は、AIDS 患の患者終末期専門のホスピス Legacy Hopewell House、マグネット病院の Legacy Emanuel Hospital と隣接する小児専門病院の Randall Children's Hospital も一部見学を行った。根岸講師は、Oregon Health & Science University の看護学部も訪問し、平成 30 年 11 月 6 日に開催予定の特別講義・最新看護の動向でゲスト講師に迎える Dr. Ann Nielsen とも講義の打ち合わせを行った。

ポートランド大学で看護学部教員の Dr. Mood と　移民・難民支援センターの職員と

5） Dr.Nielsen の招聘講演を開催：看護学部「最新看護の動向」看護学研究科「特別講義」

平成 30 年 11 月 8 日の 1 ～2 限目に、米国オレゴン州オレゴン健康科学大学（Oregon & Health Science University）の Dr. Ann Nielsen を招聘し、看護学部「最新看護の動向」と看護学研究科「特別講演」を開催した。講義タイトルは「看護基礎教育における臨床指導者・臨床機関との協力（Collaborating with preceptors and clinical agencies for student nurse education）」であり、渡邉教授が司会進行を、根岸講師が逐次通訳を行った。学生たちは、米国における看護大学生の実習の仕組みと内容、臨床指導者が受ける教育と学生の指導方法、医療機関と大学との連携について学習した。講義後半には活発な質疑応答もあり、学生たちの意欲的な学習態度が見られた。参加総数は 37 名であった。

6） COIL プロジェクト提携校との国内交流（シンポジウム参加、米国大学教員視察受け入れ）

平成 30 年 12 月 6 日、上智大学・お茶の水女子大学・本学の 3 校で共同実施する標記補

助事業のキックオフシンポジウムとして、共同事業のテーマである「人間の安全保障と多文化 共生」においてオンライン国際協働教育（COIL）が果たしうる可能性について、講演やパネルディスカッションを通じ議論を深めるシンポジウムが上智大学で開催された。本学部からは国際看護学領域教員 2 名（渡邉教授、根岸講師）が出席し、渡邉教授はパネルディスカッションのパネリストとして本学部の紹介とシミュレーション看護教育を取り入れた COIL 構想の発表を行った。その後、レセプションに参加し、国内と米国の COIL 提携校担当者・教員とネットワーキングを図り今後の情報共有を図った。

翌 12 月 7 日、米国 COIL 提携校であるオレゴン州のポートランド大学（University of Portland）から 2 名（Dr. Layla Garrigues, Ms. Gwen Nadine)、ワシントン州のゴンザガ大学（Gonzaga University）から 1 名（Dr. Lee Yang)、上智大学のグローバル教育推進室チームリーダーの高木航平氏、お茶の水女子大学の国際課国際交流担当の中村健一氏（計 5 名）の本学・学部への視察団を受け入れた。草薙キャンパス、はばたき棟 3 階の特別会議室にて鬼頭学長、奥村副学長ほか全学部代表教員と本学部の根岸が出席し、大学紹介や名刺交換の後、草薙キャンパスツアーを行った。その後、金澤学部長と国際看護学領域教員 2 名（渡邉教授、根岸講師）が、視察団の小鹿キャンパスツアーを担当した。看護棟 2 階、3 階の各実習室と 1 階を見学後、視察団は大阪へ向かった。ポートランド大学とゴンザガ大学からの代表者方からは、今後本学部との COIL を通した国際交流に力を入れたいとのことであった。

渡邉順子教授のパネルプレゼンテーション

上智大、お茶の水女子大、本学部の趣意書署名式

7） ポートランド大学看護学部教員と連携した本学初の COIL 授業開催

平成 31 年 1 月 21 日の 1 限目に、小鹿キャンパス教育棟 2 階講義室（252）で、国際看護学領域教員 2 名（渡邉教授、根岸講師）がポートランド大学看護学部教員 3 名（Dr. Laura Mood, Dr. Layla Garrigues, Dr. Isabella Soul）と本学初の COIL 授業を、根岸講師の担当科目「国際看護論」（2 年生、選択）の 1 コマを使用し開催した。本学部からは、2 年生 9 名（履修生）と 4 年生 1 名（学生側の通訳を兼任）の計 10 名、ポートランド大学からは学年が異なる看護学部生 10 名の総計 20 名の学生が参加した。本学の広報企画室の町田匠氏が COIL 授業で使用する機材と Skype for Business（オンライン授業で使用したサーバー）を準備・セッティングし、ポートランド大学教員 3 名が各自「途上国での医療協力」の経験をプレゼンテーションし、その前後で学生に数分の討論時間を設け、学生同士の意見交換を行った。根岸講師は講義の進行と通訳を行った。

ポートランド大学側の Tech 担当者の準備が遅れたことで、授業が 10 分ほど遅く開始となった。また、途中、機材の問題で音声が聞こえにくい時があったが、日米学生間の意見

交換時間が少なかったなど課題はあったが、参加学生達（日米）からは米国の看護学生と交流できたことが刺激になったなどの好意見が多かった。

奥村副学長と COIL 授業に参加した本学部生

COIL 授業風景

8） **モンゴル大学院大学教授の視察受け入れ**

平成 31 年 1 月 28 日、モンゴル大学院大学教授のパンティーン・ガンホヤグ氏（Pantiin Gankhuyag）が本学草薙キャンパスに来校し、薬学部伊藤邦彦教授と渡邉看護学研究科長が出席し、薬学及び看護学に留学生を受け入れられるかの可能性について情報・意見交換を行った。

9） **ポートランド州立大学・ポートランド大学訪問、オレゴン健康科学大学で招聘講義を行う**

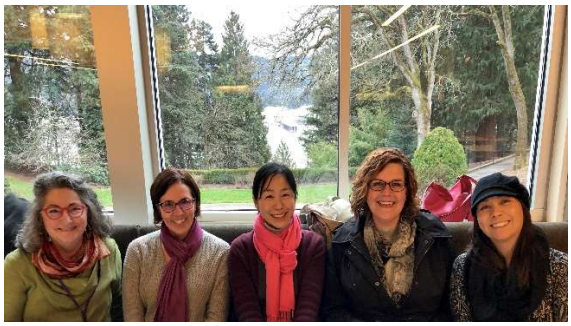
平成 31 年 2 月 27 日から 3 月 10 日まで、本学部の国際看護学領域教員 1 名（根岸講師）がオレゴン州ポートランド市にある 3 大学を訪問した。根岸講師は 2 月 27 日到着後、ポートランド大学看護学部にて、看護学部長（Dr. Casey Shillam）と、1 月に共同で COIL 授業を行った看護教員 3 名（Dr. Laura Mood、Dr. Layla Garrigues、Dr. Isabelle Soule）とで、COIL 授業の評価・次年度の COIL 授業計画・共同研究の可能性について話し合った。COIL 授業を継続するにあたり、ポートランド大学看護学部が、本学部に合わせて「国際看護論」や「災害看護論」のコースを取り入れることを考慮中である。

翌 28 日から 3 月 1 日まで、根岸講師はポートランド州立大学（PSU）と滋賀県立大学看護学部の構築した国際看護研修プログラム（本学部の国際保健・看護実習と同様の内容）に中途参加し、本学部の予定とする実習に反映させるべく、参加教員と学生（計 13 名）の評価を伺った。オレゴン州に 2 つしかない第 3 次救急小児専門総合病院である Randall Children's Hospital と Doernbecher Children’s Hospital、高齢者用介護施設である Calaroga Terrace、ワシントン州のホスピス Ray Hickey Hospice House、ポートランド大学のシミュレーションセンター見学などを行った。参加学生たちへの聞き取りでは、ホームステイにより異文化交流が図れたこと、米国の医療・看護の講義（医

療制度、リーダーシップ、尊厳死、NP や看護麻酔師について他）受講と多種の医療機関訪問により、多くを学習し満足度は高かったとの意見が聞かれ、本学部の新カリで開講する国際看護実習にも妥当であると考えた。

3 月 4～6 日の間では、根岸講師は PSU の国際交流課の真澄リント氏、諏訪春菜氏と、個別に「2019 年 3 月 26 日の奥村副学長と本学国際交流委員による PSU 視察」の事前打ち合わせを行った。また、オレゴン健康科学大学（Oregon Health & Science University、OHSU）看護学部教員の Ruth Taddese 氏と OHSU でのゲスト講義と臨床指導に関する会議を行った。

3 月 7 日、根岸講師は OHSU 看護学部編入 4 年生対象の Population Health Practice Course で学生達のポスタープレゼンテーション評価を Taddese 氏と行った後、学部 2 年生対象の「Chronic Illness and End-of-Life Care Course」で、日本の医療制度と高齢者問題・日米の看護の比較などについて、招聘講義を行った。講義中は、多くの質問・意見が出て、日本の医療・看護への関心の高さを感じた。翌 8 日は、根岸講師は Taddese 氏の案内で、市内の精神科専門病院である Unity Center for Behavioral Health を視察後、Taddese 氏が臨床指導している 2 年生グループ（8 名）のポストカンファレンスに出席し、共同で Debriefing を行った。その後、学生達から日本の精神科医療の現在（疫学的見解、保険制度など）や、実習形態などについての質問や討論があった。本学部の篁教授から頂いていた資料を部分的に翻訳し伝えた。その日の夕、根岸講師は、Taddese 氏、Dr. Ann Nielsen、Dr. Kathie Lasater と Concept based learning activity & Clinical judgment model や validity of Lasater clinical judgment rubric の共同研究に関する会議を行った。



COIL 会議（ポートランド大学看護学部）

オレゴン健康科学大学看護部で、
ゲスト講義を行う

10） **COIL プロジェクト提携校のボストンカレッジ視察**

平成 31 年 3 月 23 日～29 日、本学部の国際看護学領域教員 2 名（渡邉教授、根岸講師）が、COIL プロジェクト提携校であるボストンカレッジの看護学部を訪問し、Dr. Colleen Simonelli（副学部長）と今後の本学部との COIL 授業の可能性について会議を行う。また、根岸講師の知人であるボストンカレッジ教員の Dr. Karen Lyons（准教授）と Dr. Christopher Lee（研究副科長・教授）との Meeting も予定している。本学部の将来的な海外実習先として、その可能性を探るため、Massachusetts General Hospital (MGH)、MGH INSTITUTE OF HEALTH PROFESSIONS　School of Nursing、Paul S. Russell, MD Museum of Medical History and Innovation at Massachusetts General Hospital、Joslin Diabetes Center、Children's Hospital Boston の視察も計画している。

2. 国際保健・看護実習

1） 国際保健・看護実習の実施

平成 30 年度は、前年度に引き続き、国内だけでなく海外にも目を向けグローバルな視点から人や環境を理解し看護活動を考えるきっかけとなることを主眼とした国際保健・看護実習を実施した。本実習は 4 年生前期開講の選択科目（2 単位）であり、今年度選択した学生は 3 名であった。実習期間は、平成 30 年 8 月 20 日（月）～8 月 31 日（金）の 2 週間であった。尚、本実習は第 2 回目であり、コンケン大学の受け入れおよび指導体制も整ったことから、教員の引率は学生の実習全期間を通じて行わず、後半 8 月 27 日～8 月 31 日とした。実習施設は、コンケン大学看護学部(Faculty of Nursing, Khon Kaen University)を拠点とし、コンケン大学医学部附属シーナカリン病院 (Srinagarind Hospital, Faculty of Medicine, Khon Kaen University)、の MICU (Medical Intensive Care Unit)、緩和ケア(Palliative Care Unit)、第 3 次医療機関であるコンケン病院の Stroke Care Unit、Thai Medicine であった。最終日には、「実習を通しての学びについて」学生により PPT を用いたプレゼンテーションを行い Dr. Kanittha よりご指摘および講評を得た後、学生 3 名へ修了証を授与して頂いた。この実習を通し、学生たちは健康の意味、多様性の意味、そして先ずは自国のことをもっとよく理解しなければならないこと、さらに、グローバルに考えることの意味について考えるきっかけとなったと思われる。

VII. 看護学部と看護学研究科の教育・研究・地域貢献活動

1. 領域別の教育活動と地域貢献活動

1) 専門基礎領域の活動

(1) 医学系教員の活動

＜教育活動＞

専門基礎分野は「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「人間と人間生活の理解」領域の科目で構成されている。「機能形態学」「生物化学」「病態学」「症候論」「臨床検査・画像診断」「健康環境論」など、看護の基礎となる病態理解に力点を置いた講義を展開している。1 年生から 2 年生にかけて、医療の基礎となる解剖学（正常生体構造）・生理学（正常機能）からはじまり、“病気”を症状別、疾患別に、表在理学変化から臓器病理まで多面的に、かつきめ細かく解説し“テーラーメイド医療”の一員としての自覚・自信を身につけることを目的とした授業を行っている。さらに、講義だけではなく、自らの手で科学的事象を再現し証明する実習（「基礎健康科学演習」）、ならびに、1・2 年次に学んだ基礎医学系科目と基礎看護系科目の知識を統合する演習（「看護統合セミナーI」を行った。「基礎健康科学演習」では、人の健康状態を多面的に判断できる能力を実践的に身につけることと、人の健康に影響を与える身の回りの病因を知り対応できる能力を養うこと、また今後の看護実践に必要な科学的実証方法および思考方法を習得することを目標に実験実習の指導を行なっている。人体標本を用いた肉眼観察、組織標本を用いた顕微鏡観察、ラットの解剖と観察、血球細胞の標本作製と観察などの解剖学と、血液検査や心電図測定などの生理学・検査法、ラット肝組織からのグリコーゲン抽出、酸塩基滴定（生体内や環境水の pH の理解）、可視吸光の原理などの理科・理化学的基礎、微生物の染色検査や鼻腔中ならびに手指の微生物の検出と抗微生物薬の効果判定などの微生物学に関する実験を行なっている。「基礎セミナーI」では、大学での学習活動における基礎力の養成を目指して、特に文章表現やレポート作成方法に関する基礎教育を実施した。また、「看護統合セミナーI」では、臨床で得られる情報を看護者の視点から分析し看護実践に反映させる基礎能力を習得する目的で、症例を用いて医学的側面から症例把握、鑑別診断のプロセスを実施し、看護アセスメントにつなげるよう工夫している。

＜地域貢献活動＞

金澤、高林、三﨑は「県民の日」の地域住民への大学一般公開に参画し、人体模型の展示とクイズ、人体の仕組みの解説などを実施した。

濱井の地域貢献活動については保健学領域を参照のこと。

(2) 保健学系教員の活動

＜教育活動＞

保健学分野は『健康支援と社会保障制度』の「公衆衛生学」「社会福祉論」「保健福祉行政論」「保健医療統計学」「情報処理演習」「疫学」の科目で構成されている。学生が興味を持ちモチベーションが低下しないように、できる限り日常の問題に関連づけて解説することを心がけている。具体的には、出生率の低下による少子高齢化、生活保護受給者の増大、環境汚染、エボラ出血熱、インフルエンザの流行、食中毒など社会問題となっている事象を取り上げて講義の導入としている。教員は学部専任講師、学部横断ならびに実務経験のある非常勤講師が担当している。

＜領域で行っている地域貢献活動＞

濱井は、沼津市開発審査会委員として、市街化調整区域内における、社会福祉施設の建設、研究所の建築等の可否について審査した。また、静岡県医療通訳者養成講座の講師ならびにコーディネータを務め、静岡県ならびに静岡県国際交流協会と協力して医療通訳体制づくりに取り組んでいる。さらに、外国人患者受入れ拠点病院である磐田市立総合病院で外国人患者受入れ環境整備事業研修会の講師を務めるとともに、医療通訳に関する情報を提供している。

2）基礎看護学領域の活動

＜教育活動＞

基礎看護学領域

① 授業の特徴と昨年度より変更した点

本年度より平成 30 年カリキュラムが開始し、これまでの科目名と配置年次が変更になった。１年次に配置された新たな科目は、看護学原論、基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ、基礎看護技術演習Ⅰ・Ⅱ、看護コミュニケーション演習であった。このうち、看護学原論、看護コミュニケーション論、看護コミュニケーション演習を渡邉が担当した。看護学原論は看護理論を含めた内容とし、看護コミュニケーション論（SP 参画型）は合同クラスで、看護コミュニケーション演習と看護コミュニケーション実習はクラスを２分し､交互に展開した。これらの複合した教授方法により入学間もない１年生は、臨床の場での看護に必要以上に緊張することなく臨むことができた。特に、模擬患者による授業では、模擬患者による解釈モデルを真摯に受け止め、患者に対する看護の多様性を理解できた。

２年次は平成 26 年カリキュラムの最後の年であり、従来通り、看護過程、看護と安全、ヘルスアセスメント技術、基礎看護技術Ⅲ、看護統合セミナーを担当した。今年度も領域教員の退職及び着任に伴って担当教員の入替が生じた。平成 30 年ならびに平成 26 年カリキュラムが同時並行で進行したこと、教員の入れ替えをふまえ、講義内容と展開方法の検討・変更を行った。1 学年 120 名の学生の技術指導を充実させるため、実習室２か所の使用、e-learning を活用する等、学生にとっての教育効果が向上するよう工夫した。

② 実習について

基礎看護学領域における実習は、１年次の看護コミュニケーション実習（１単位)、２年次の看護アセスメント実習（２単位)、４年次の発展看護実習Ⅰ（１単位)、発展看護実習Ⅱ（１単位）であった。看護コミュニケーション実習は２施設（静岡赤十字病院・静岡市立静岡病院）で実施した。看護の実際についての理解を深め、患者と看護師および看護師間のコミュニケーションの基本について体験的に学習することを目的に、療養環境の観察や看護ケア場面に参加した。５月から週１回の隔週で実習を行った。学生は学内のコミュニケーション演習で学習した内容を臨地での体験と照らし合わせ、学習した技術を実践することができ、次回の実習課題を見出すことにつながっていた。

２年次の看護アセスメント実習では２施設（静岡県立総合病院・静岡赤十字病院）で実施した。主な実習内容は、前半は１名の患者を担当し、患者背景や病態理解、必要な看護実践行為といった一連の流れについて看護過程を展開した。後半は、看護師とともに患者に行われた看護がどの看護診断、看護成果および看護介入実施計画に基づいていたかを学習することで、看護過程を総合的に学習する機会となった。

４年次の統合分野に位置づけられる発展看護実習では、本年度から４つのテーマを設定

し学生に希望する実習内容を選択してもらう方法に変更した。発展看護実習Ⅰのテーマは、①看護師の臨床判断とアセスメント、②病院が企画するインターンシップと病院見学を活用した看護管理、③医療安全、④多職種連携とした。発展看護実習Ⅱのテーマは、①特定看護行為、②インターンシップと病院見学を活用した看護教育、③感染管理、④多重課題とした。卒業直前に、これまでの１名の患者を受け持つという実習ではなく、複数名の患者を受け持つ体験、組織全体・地域全体をアセスメントする体験等によって、学生は各テーマにおいて看護の専門性を探求する場となった。

大学院看護学研究科

基盤看護学領域では看護技術学分野と看護管理学分野を担当した。また、共通科目の研究法Ⅰ、看護理論も担当した。今年度は看護技術学分野の４名の院生（渡邉３名、操１名）が修士論文を提出し、修士論文審査・最終試験審査に合格した。渡邉が担当した院生の研究課題の特徴は、脳卒中後の排泄自立、マニュキュアによるフレイル防止効果、クリティカル看護師のカテコラミン投与の実態と多岐にわたる看護技術課題であり、いずれもその成果は実践可能なものであった。

さらに、他の分野に在籍する院生の研究計画書審査や修士論文審査・最終試験審査等に携わった。

＜領域で行っている地域貢献活動＞

基礎看護学領域

渡邉は、磐田市立総合病院において看護研究支援を継続的に行っている。認定特定非営利活動法人愛知排泄ケア研究会の理事および排泄機能指導士講習会の講師として、看護職以外に対しても広く排泄ケアの啓発活動を設立初期から携わっており、一昨年より排尿自立支援の診療報酬加算に必要な追加講習の講師も担当し、精力的に排泄ケアの普及活動をした。また、国立大学法人浜松医科大学医学系研究科看護学専攻修士課程において、委託任用を受け「看護教育論」を継続的に教授した。さらに、日本看護技術学会副理事長として、学会の一般社団法人化に尽力した。日本看護学教育学会評議委員・査読委員、日本看護研究学会監事・査読委員、日本看護医療学会理事・査読委員、日本老年泌尿器学会評議員として活動した。また、日本精神科看護協会が主宰する精神科認定看護師の講習において「ポジショニング・ボディメカニクス」の演習授業を継続的に担当し、基本的かつ最新の技術提供を教授した。

荒井は、前職において日本のナースプラクティショナー養成教育に創成期より携わっている。平成 27 年 10 月に厚労省が看護師の特定行為研修制度を定めたことを受け、指定研修機関である国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健医療学専攻特定行為看護師養成分野の特定行為研修管理委員会委員として引き続き委嘱され、外部委員としてカリキュラム認定や教育評価等について活動した。また、静岡済生会総合病院の地域医療支援病院運営委員会委員として活動した。

操は、平成 30 年度は以下の地域貢献活動を行った。高大連携出張講義として、三島南高等学校での講義を担当した。国立大学法人東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科（看護学研究法特論）、神奈川県立保健福祉大学大学院看護学研究科（がん看護学演習Ⅰ）、神奈川県立保健福祉大学看護教育実践センター感染管理認定教育課程（疫学、文献の批判的吟味）から委嘱を受け、非常勤講師を担当した。東北労災病院（看護診断）、東京都看護協会（質的研究）、福島県看護協会（看護研究）で開催された各研修の講師を担当した。医療法人徳洲会湘南厚木病院（感染管理プログラム）、独立行政法人地域医療機能推進機構桜が

丘病院（感染管理プログラム、看護研究支援）、邦友会小田原循環器病院（感染管理プログラム、看護研究支援、倫理審査体制の構築、看護診断・看護記録）のコンサルテーション業務を引き受けた。日本看護科学学会代議員・和文誌専任査読委員、日本環境感染学会評議員･教育委員会副委員長･編集委員･国際交流委員、日本医療安全学会査読委員、American Journal of Infection Control（AJIC）査読委員の委嘱を受け、活動した。

永谷は、平成 30 年度高大連携出張講義として、磐田東高校にて講義を行なった。日本看護医療学会の事務局長として活動した。また、日本看護医療学会査読委員の委嘱を受け、活動した。

山口は、平成 30 年度高大連携出張講義として、富士市立高等学校にて講義を行った。また、神奈川県立保健福祉大学実践教育センター認定看護管理者研修（ファーストレベル）から委託を受け、非常勤講師を担当した。

管原は、静岡市立清水看護専門学校の教育課程編成会議委員として委嘱を受け、年 2 回の会議に参加し、教育課程に関する意見交換を行った。さらに、静岡県専任教員養成講習会運営委員会のメンバーとして、平成 31 年度開講の専任教員養講習会の開講までの会議に参加した。平成 30 年度高大連携出張講義として、静岡県立清水西高等学校にて講義を行った。
今年度より、操教授とともに、桜ヶ丘病院の研究指導を担当した。講義及び面談による指導により病棟研究の指導を行っている。

倉本は、平成 30 年度高大連携出張講義として、藤枝西高等学校にて講義を行った。

3）成人・老年看護学領域の活動

＜教育活動＞
成人看護学領域
①　授業の特徴と昨年度より変更した点
成人看護学領域の授業では、ライフサイクルのうえで最も長期間を占める成人期におこる病気、健康障害を持つ人々と家族について、身体的・心理的・社会的な側面の統合された存在としてそれらの人々を捉え、その特徴を理解し、急性期、慢性期あるいは回復期のすべてを通して、健康の維持、予防、回復、治癒、適応、QOL の向上をめざした科学的根拠に基づく看護を実践できる力を養うことを目標としている。この目標に変更はないため、授業内容も変更していない。
②　実習について
「成人看護学実習Ⅰ」、「成人看護学実習Ⅱ」、「成人看護学実習Ⅲ」の 3 つの実習を行った。各実習の 1 クールは 2 週間とした。
「成人看護学実習Ⅰ」と「成人看護学実習Ⅱ」では、履修生は各 114 名であり、計 42 グループ、42 クールの実習を行った。そのため、実習施設は、静岡県立静岡がんセンター、静岡県立総合病院、静岡済生会総合病院、静岡赤十字病院、静岡てんかん・神経医療センターの 5 ヶ所と多岐に渡っている。今年度においても、これら 5 つのそれぞれの施設の看護部および実習部署と密に連携を行いながら病棟実習を進めた。「成人看護学実習

Ⅱ」では、加えて手術室・HCU・ICU での見学実習を行った。

「成人看護学実習Ⅲ」は 1 グループを 2 チームに分け、チーム別に、①受け持ち患者に対する EBP に基づく看護過程の展開と、②臨床判断能力の育成を目的に高機能シミュレータを用いたシミュレーションの 2 つの内容を行う実習である。①については静岡赤十字病院で、②については学内で実施した。履修学年となる 4 年生は 122 名であった。

老年看護学領域

① 授業の特徴と昨年度より変更した点

老年看護学領域では、老年期にある対象の生活および老化に伴う身体的・心理的・社会的特性を理解し、老年看護の基本的な理念と援助、今後の保健・医療・福祉における施策の方向と看護の役割について考えることができることを目標としている。科目は「対象の理解Ⅱ」、「老年看護学」、「老年看護学演習」、「老年看護学実習Ⅰ」「老年看護学実習Ⅱ」で構成されており、各教科目を通して、個々の高齢者の価値観を尊重する態度を養うとともに、高齢者に生じやすい健康問題への看護援助、家族への支援等から、その人らしい生活の質（Quality of Life）の確保と向上に資するような援助技術の修得について教授している。

今年度は、老年看護学実習Ⅱにおける短期間での看護過程の展開の必要性から、「高齢者の特徴を踏まえた看護過程」を展開し、自分の計画した看護計画の実施・評価まで展開するようにした。

② 実習について

老年看護学実習Ⅰ（1 単位）は、2 年次（H26 カリキュラム）108 名が履修した。介護老人保健施設の入所、通所部門にて実習を行い、高齢者の介護予防をめざした支援のあり方について学修した。実習施設は、介護老人保健施設 5 施設（エスコートタウン静清、ケアセンター池田の街、ケアセンター瀬名、こみに、星のしずく）にて実施した。実習グループ 17G を 3 クールに配置し、最終の 1 クールをインフルエンザ罹患などによる影響も考慮し追実習のための予備週とした。各部門の職員各位にご指導頂き、多職種間の連携と看護職の役割について考察を深めることができた。

老年看護学実習Ⅱ（2 単位）は、3 年次（H26 カリキュラム）113 名が履修した。今年度も療養型医療施設実習 6 日間・回復期リハビリテーション病棟実習 2 日間にて実施した。療養型医療施設実習は 3 施設（小鹿病院、静岡瀬名病院、山の上病院）、回復期リハビリテーション病棟実習は 5 施設（静岡リハビリテーション病院、甲賀病院、静岡リウマチ整形外科リハビリ病院、静清リハビリテーション病院、山の上病院）にて実施した。特に、学生の学びにおいては、療養型医療施設ならびに回復期リハビリテーション病棟における多職種の連携のあり方から、看護職の役割について考察を深めることができた。

成人・老人看護学分野(研究科)

成人・老人看護学分野は、慢性看護学、急性看護学、がん看護学の 3 看護学を包括し、本分野の学問的多様性と院生の研究ニーズに対応できる指導・支援体制を取っている。各看護学においては、独自の看護現象を捉え、そこでの課題や問いを明確にし、既存の研究方法の適用、さらには新たな方法論の開発にも挑戦しつつ、対象の理解と実践を支える新しい知見の発見とその構築に取り組んでいる。研究科の学生は、この過程をそれぞれの特論(各看護学での研究に必要な基本的理論の理解)、演習(各現象への基本的理論の適用と評価)、応用実習(基本的理論の実践での個別適用とその長所と限界の検討)を通して学びつつ、修士論文としてまとめる。

今年度、本分野には、修士課程 1 年 2 名、2 年 2 名の計 4 名の院生が在籍した。1 年 2 名は、1 年次のコースワークを終了し、学位論文研究計画書の審査に合格した。

＜領域で行っている地域貢献活動＞

成人看護学領域

山田 紋子

静岡県立総合病院の臨床研究倫理委員会および看護部臨床研究倫理委員会の外部委員、日本看護診断学会の専任査読委員、静岡市で開催された第 49 回日本看護学会－慢性看護－学術集会の抄録選考委員、本学で開催された第 8 回日本在宅看護学会学術集会の実行委員長として活動した。また、東海大学救急看護認定看護師教育課程の非常勤講師を務めた。さらに、3 ヶ所の総合病院において看護診断に関する講義を、静岡県看護協会主催の平成 30 年度看護職員実習指導者等講習会において「領域別実習指導(成人)」の講義を行った。学内の高大連携事業において静岡県立静岡城北高等学校での出張講義を行った。

青木 和惠

2018 年 9 月 27 日・28 日に静岡県看護協会が担当して開催した第 49 回日本看護学会学術集会－慢性期看護－（静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ）で学術集会運営委員会の委員、および抄録選考委員会の委員長、シンポジストを務めた。また静岡県内の大学、教育機関などの非常勤講師として、静岡県立静岡がんセンター認定看護師教育課程、常葉大学健康科学部看護学科、岩手県立大学大学院看護学研究科、聖隷三方原病院ファーストレベルにおいて講義を担当した。また静岡県立静岡がんセンター認定看護師教育課程では教員会委員を務めた。学会関連では、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会の理事および広報委員、編集委員、日本がん看護学会の査読委員、日本創傷・オストミー・失禁管理学会の理事および査読委員として活動した。さらに 2020 年 2 月に第 37 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会の会長として実行委員会を設置し開催準備を開始した。

田中 範佳

Honor Society of Nursing の Grant 査読委員・学会査読委員、Virginia Henderson Global Nursing e-Repository の査読委員として活動した。静岡県立静岡がんセンター認定看護師教育課程教員会の教員会委員を務めた。学内の高大連携事業において沼津城北高校での出張講義を行った。

鈴木 琴江

日本看護学教育学会の評議員として活動した。また、日本看護学教育学会第 28 回学術集会査読委員として 3 件の投稿演題について査読審査を行った。さらに、日本看護学教育学会誌専任査読委員として 1 件の投稿論文について査読審査を行った。

糸川 紅子

第 49 回日本看護学会―慢性看護―学術集会（静岡市）の査読委員、第 8 回日本在宅看護学会学術集会の実行委員、第 37 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会事務局長を務めた。また静岡県対がん協会のがん患者のピアサポーター養成研修、がん患者のピアサポーターフォローアップ研修にて講師を務め、がんサバイバーを対象とする教育やピアサポーター養成研修に従事した。さらに静岡赤十字病院の医療情報共有システム「シズケア＊かけはし」のモデル事業において、外部委員として携わった。高大連携事業では静岡県立清水南高等学校にて、がん看護に関する出張講義を実施した。

前野 真由美

第 49 回日本看護学会―慢性看護―学術集会（静岡市）の査読委員を務めた。静岡県多文化共生審議会の委員として、「ふじのくに多文化共生推進基本計画」に関して意見を述べ

た。外国人のための無料健康相談と検診会実行委員会事務局長として、「第 21 回外国人のための無料健康相談と検診会」10 月 28 日静岡済生会総合病院の開催に携わった。

木元 千奈美

本学で開催された第 8 回日本在宅看護学会学術集会の実行委員および、第 37 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会の実行委員として活動した。学内の高大連携事業において、静岡学園高等学校での出張講義を行った。

石切山 千恵

本学で開催された第 8 回日本在宅看護学会学術集会において実行委員として活動した。学内の高大連携出張講義において、静岡県立下田高等学校での出張講義を行った。

老年看護学領域

安田真美

2018 年 9 月 27 日・28 日に静岡県看護協会が担当して開催する第 49 回日本看護学会学術集会－慢性期看護－（静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ）について学術集会運営委員会の委員、口演発表の座長を務めた。また、静岡県看護協会の学術研究推進委員会の委員および看護研究倫理審査委員会の委員、2019 年 2 月 9 日に静岡県看護協会が開催した第 7 回静岡県看護学会(静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ)の査読委員、実行委員を担当した。2018 年 12 月 8 日・9 日に開催された第 8 回日本在宅看護学会学術集会の一般演題査読委員および実行委員として活動した。

社会福祉法人駿府葵会 特別養護老人ホーム蜂ヶ谷園・久能の里の第 3 者委員を担当した。

発展看護実習(老年看護学領域)にて、健康文化交流館『来・て・こ』および静岡県立大学「ふじのくに」みらい教育センター(COC)と共催し、地域住民向けの健康教育(県大生と楽しく学ぼう食と運動)を実施した。

下吹越直子

発展看護実習(老年看護学領域)にて、健康文化交流館『来・て・こ』および静岡県立大学「ふじのくに」みらい教育センター(COC)と共催し、地域住民向けの健康教育(県大生と楽しく学ぼう食と運動)を実施した。2018 年 12 月 8 日・9 日に開催された第 8 回日本在宅看護学会学術集会の一般演題査読委員および実行委員として活動した。

飯塚真樹

発展看護実習(老年看護学領域)にて、健康文化交流館『来・て・こ』および静岡県立大学「ふじのくに」みらい教育センター(COC)と共催し、地域住民向けの健康教育(県大生と楽しく学ぼう食と運動)を実施した。2018 年 12 月 8 日・9 日に開催された第 8 回日本在宅看護学会学術集会の一般演題査読委員および実行委員として活動した。高大連携出張講義にて静岡県立焼津中央高校を担当し、出張講義を行った。

4) 小児看護学領域の活動

＜教育活動＞

① 学部教育における講義・演習科目：「対象の理解Ⅴ（小児看護学)」「小児看護学」「小児看護学演習」「卒業研究」

シラバスの内容に沿った講義と演習を、テキスト（メディカ出版「ナーシング・グラフィカ小児看護」及び医学書院「小児臨床看護学論」）を用いて展開した。

講義では、学生が小児看護をイメージできる様に、事例や視聴覚教材を用いた講義

の工夫を行った。また、講義はどうしても指導型教育になってしまうため、講義終了後に必ず学生の「講義における感想と質問」を紙面で聴取し、リフレクション（省察）が促せる様に配慮した。

演習では、子どもとの接触体験が非常に少ない学生であることから、卒業生の子ども（幼児期）数名に協力をもらい、子どもと関わる体験型学習を取り入れた。また、成長発達段階に応じた正確なバイタルサインの測定や身体計測を学ぶために、モデル人形を用いた小グループ制の学習を行った。小児看護では、成長発達途上にある子どもを対象とすることから、常に安全に留意しなくてはならない。そのため、ベッドからの転落予防や移動時の安全対策を学ぶ学習、輸液ポンプを用いた輸液管理や固定法を学ぶ学習も、小グループに分かれて学習を行った。その他、ペーパーペーシェント事例を用いて、小児看護における看護過程やプレパレーションの学習も行い、小児看護実践の具体的な方法について教授した。

4年生を対象にした「卒業研究」では、学生の興味・関心のあるテーマで研究に取り組む様に指導し、数回のゼミを通して主体性のある学習を促した。

② 学部教育における実習科目：「小児看護学実習」「発展看護実習」

静岡県立こども病院（乳児内科病棟、感染管理病棟、幼児・学童内科病棟、外科病棟、循環器病棟の5病棟）および藤枝市立総合病院（小児科病棟）で、2週間の「小児看護学実習」を行った。実習目的「成長発達過程にある子どもを理解し、発達障害や健康障害のある子どもとその家族のセルフケアを支える看護実践能力を養う」の下、学生は、原則1名の患者を受け持ち看護過程の展開と看護実践を学ぶ実習、小児外来における看護・出生体重児の看護の実際を学ぶ見学実習を行った。実習施設の実習受け入れは非常に良く、1病棟に1名の臨地実習指導者が常駐し指導を行ったので、学生の実習満足度は非常に高かった。

4年生を対象にした「発展看護実習」では、看護管理について学ぶ実習と複数の患者を受け持ち看護の優先度について学ぶ実習を4日間、地域における子育て支援の実際を学ぶ実習を4日間行った。学生は、事前の実習計画立案、実施、終了後のまとめの全ての過程で、主体的・積極的に取り組んだ。

＜領域で行っている地域貢献活動＞

① 小児看護師を対象にした看護倫理教育への支援

実習施設である「静岡県立こども病院」看護部倫理委員会と協働して、67名の小児看護師を対象に小児看護における倫理教育研修を行った。小児看護の倫理に関する基本的な知識について45分講義し、小グループに分かれた事例検討を45分行った。参加者は、看護倫理教育は重要であり定期的な教育の機会を望んでいた。今後も、「静岡県立こども病院」看護部倫理委員会と協働して、参加しやすい教育研修プログラムと事例教材の開発に取り組んでいく予定である。

② 難病のこどもの支援ネットワーク・全国各地でのサマーキャンプ「がんばれ共和国」

当団体は、全国の難病のこどもとその家族の支援を目的として、全国各地でのサマーキャンプを活動の中心としている団体である。この中部地区のサマーキャンプで、静岡県立こども病院の協力の下、医師、看護師、チャイルドライフスペシャリスト、理学療法士、保育士などがボランティアとして多数参加している。小児看護学の教員は、学生数名と共に参加し、日常生活の世話、入浴、一部の医療的ケア、ボランティア統括などを担った。

③ リレー・フォー・ライフジャパン静岡2018　チーム参加

がん患者やその家族、支援者らが公園、グランドを24時間リレーしながら歩き通すことでがん患者やその家族が交流を深め、共通認識を確かめ合うためのイベントであ

る。静岡では本学芝生園地で本学共催として毎年秋に開催され、教員は、がん撲滅のため学生と共に企画から関わり継続参加している。

④ 静岡県内の特別支援学校に勤務する看護師の研修の企画と開催

静岡県教育委員会学校教育課特別支援教育室から依頼を受け、3 月（継続看護師対象)、4 月（新任看護師対象)、年 2 回にわたる看護師研修の企画・開催を行った。

⑤ 心臓病のこどもを守る会静岡支部：親睦会親子キャンプへの参加

一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会は、医療制度の改善と社会保障及び教育制度の充実等、心臓病児者とその家族の幸せのために活動することを目的とし 1963 年に設立された。静岡支部では、専門医による講演会、学習会を定期的に開催しており、医師・看護師が参加した療育キャンプ・クリスマス会を実施運営している。小児看護学領域では、毎年 5 月に開催される領域キャンプにボランティアとして参加し、心臓病のこどもとその保護者、きょうだい、医療従事者が様々な役割を担ってバーベキュー、相談会、レクリエーションなどを企画している。今年度も県立こども病院の循環器科の医師らとともに、医療従事者として参加した。

⑥ 静岡市中央子育て支援センター：育児講演会

静岡市中央子育て支援センターの依頼により、11 月 13 日、“ほっと子育て講座「子どもの健康」”をテーマとした育児講演会を行った。他大学の小児看護学の教員とともに、講演会の実施および個別の育児相談会を実施した。

5） 母性看護学・助産学領域の活動

＜教育活動＞

母性看護学

母性看護学領域では、性と生殖の側面から人間の健康課題を査定し、健康の維持増進、疾病予防に向けた健康教育、看護支援の考え方、方法について教授している。担当講義科目は、母性看護学Ⅰ、病態学Ⅴ、対象の理解Ⅲ、母性看護学Ⅱ、母性看護学演習、母性看護学実習である。母性看護学は、授業で基礎知識を学び、演習で思考過程および基礎的な技術の習得を行い、実習でそれらの統合を行うという流れで組み立てている。

母性看護学Ⅰおよび病態学Ⅴでは、女性特有の疾患に関する病態や治療、生殖の生理について、現場で活躍している産婦人科医師による講義で、診断技術の理解を深めた。

対象の理解Ⅲでは、望まない妊娠、性感染症、不妊症、出生前診断など、報道等でも目にする機会の多いテーマを取り上げ、視聴覚教材を活用し、女性の各ライフステージにおける健康課題について、学生が身近に感じられるよう工夫しながら授業を展開した。

母性看護学Ⅱにおいて 3 名の担当教員は、妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期、母乳育児支援について、同一事例を用いながらオムニバス形式で授業を展開し、健康教育と看護過程を中心に、グループおよび個人による課題学習と、その発表・意見交換で学習内容を深めた。

母性看護学演習では、各技術項目のデモンストレーションの見やすさ、質問のしやすさ、指導や助言のしやすさについて検討し、教員 1 名が担当する学生数とローテーション回数を見直した。

母性看護学実習は、2 週／1 クール 5~6 人の学生が実習を行った。実習施設は、昨年度に引き続き静岡市立静岡病院、静岡赤十字病院、静岡県立総合病院、静岡済生会総合病院、藤枝市立総合病院、焼津市立総合病院の 6 か所であった。実習内容は、2 週間に 1 組以上の母子を受け持ち、看護過程を展開することを基本とし、受け持ち母子がいない場合には、産褥期の集団健康教育や産婦人科外来の実習を行った。実習最終日のまとめの会では、実

習での学びを文献検討で考察した結果を発表し、各自の学びを深めるとともにお互いの体験を共有した。

発展看護実習Ⅰ・Ⅱは、4 年生 14 名が母性看護学領域で実習を行った。富士市内の助産所 1 か所、母乳育児支援や産後ケアを行う助産所 3 か所、子育て支援を行っている NPO 法人の計 5 か所で実習を行った。学生は、個々に実習計画を立案して主体的に実習に取り組み、11 月には発表会を開催し、それぞれの学びを共有できた。

卒業研究は、太田・石川・福島が各 3 名、中川・藤田・山田（貴）が各 2 名の計 15 名の学生を担当し、合同ゼミと教員個々のゼミを組み合わせたゼミ形式で研究指導を実施した。

助産学

修士課程 2 年生は 8 名が在籍し、休学していた 2 名は、1 名が前期から復学、1 名は後期から復学した。1 年生は 6 名が在籍した。

修士課程 1 年生の科目は、講義科目で基礎知識を学び、演習で思考過程および技術の習得を行い、実習でそれらの統合を行うという流れで組み立てている。特色ある講義科目としては、PBL による講義を展開している助産学演習 B-Ⅲ・B-Ⅳである。前年度から取り入れた、妊娠期と分娩期のシミュレーションを今年度も実施し、臨床場面に近い状況を設定して演習を行った。また、助産学特論 A-Ⅱと助産学演習 A-Ⅱでは、臨床での妊婦健康診査実習に向けて学内で必要な知識習得のための講義と演習を行い、臨床実習後は、担当した妊婦のケースカンファレンスを組み合わせて知識と臨床での学びを結び付けている。その他の講義内容としては、管理栄養士による栄養学の講義からの知識の習得、新生児蘇生法(NCPR)の講習を受講し認定を取得、フリースタイル分娩の演習、模型を用いた会陰縫合術の実施、東洋医学の専門家による鍼灸の講義と体験学習、開業助産師＆鍼灸師による指圧・灸の演習、アロマテラピーの演習、妊産婦の冷えと助産ケアの講義、母乳育児支援の講義・演習、および開業助産師による講演など、助産師に必要不可欠、且つ、より豊富な知識が習得できるように内容の充実に努めている。また、リプロヘルスサポーター認定に向けての講義を受講し、避妊具に関する市場調査の報告、また性教育の授業案の作成など、リプロダクティブヘルスに関する課題にも力を入れている。今年度も前年度同様、本学看護学部 1 年生を対象に、「私らしく、誇らしく ～自分と相手のからだと気持ちを知ろう～」と題して、性教育を実際に行った。受講した看護学部生からも好評であった。さらに、助産学特論 B-Ⅰでは、社会のニーズや時代の流れに即して教育の充実を図るため、今年度から、「周産期のメンタルヘルス」と「助産と政策」の講義を追加した。「助産と政策」では、日本看護協会会長の福井トシ子先生をお迎えして公開講義を実施した。修士論文のゼミは通年で行い、Evidence-based Midwifery のステップに基づく演習、修士論文のための文献検討、研究課題の明確化、計画書の作成に関する指導をゼミ形式で実施した。

助産学実習は、6 名が履修し、静岡県立総合病院、静岡赤十字病院、焼津市立総合病院の 3 か所で実習を行った。学生は、妊婦健康診査実習で、妊娠初期から末期までの妊婦に関わり、妊婦の健康審査や保健指導を行った。また、分娩介助は、妊娠中期からの継続事例 2 例を含め、4 名が 10 例、1 名が 9 例、1 名が 8 例行い、6 名全員単位認定された。助産学応用実習 B-Ⅱでは、地域の開業助産所である、エス・アールハウスで 1 名、おしか助産院で 2 名、くさの助産院で 1 名、渡辺助産院で 2 名が 2 週間の実習をさせていただき、地域で活躍する助産師の役割やケアについて学びを深めた。さらに、昨今の対象妊産婦や新生児のハイリスク化を踏まえ、静岡県立こども病院、聖隷浜松病院、静岡済生会総合病院の NICU において 1 週間実習を行った。修士課程 2 年生は、助産学応用実習 A を履修し、自らの研究課題について探求するとともに、助産所での分娩介助 1 例以上を実施し、

より質の高い助産ケアを修得できた。本年度は、6 名が履修し、渡辺助産院で 2 名、おしか助産院で 2 名、エス・アールハウスで 1 名、くさの助産院で 1 名が実習を行った。

修士論文指導は、太田が主指導教員として 8 名、中川、藤田、石川が副指導教員としてそれぞれ 1 名ずつを担当した。8 名が、修士論文審査と最終試験を受けて合格し、看護学修士の学位を修得できた。さらに、助産師国家試験受験資格を得て、8 名が、2 月の助産師国家試験を受験した。

大学院での 8 年間の助産学教育の実施・評価を踏まえて、更に時代や社会のニーズに即した教育を目指し､ワーキンググループを編成してカリキュラムの改定について検討した。母子保健包括支援や助産管理学の充実、特別研究から課題研究への変更、助産学実習期間と継続事例の受け持ち方が主な変更内容である。教育目標、科目編成、実習配置、教育内容について検討を重ねて、5 月 25 日に文部科学省に変更申請を行い、9 月 3 日に承認が降りた。平成 31 年度より新たなカリキュラムでの助産師養成を開始する。

その他、本学看護学部生を対象に、大学院助産学分野への受験生を増加させる目的で、助産について語る会（MJ café)を 2 回開催した。参加した学部生は延べ 18 名であり、参加後のアンケートからも、助産師や大学院進学への関心が高まった結果が得られた。

＜領域で行っている地域貢献活動＞

領域としては、昨年度同様、はじめて育児をする母親を支援するために、地域の母親たちの自助グループ「NPO 法人バディプロジェクト」と共催し、「ひよこママのサプリ講座（4 回)」を企画運営し、小鹿キャンパス新看護学部棟実習室 3、5 で開催した。また、昨年に引き続き、助産師免許を取得している本学の学部卒業生と大学院修了生を会員とした「静岡県立大学看護同窓会助産支部会」第 5 回を開催し、藤田の講演、および総会・交流会を行った。領域で主催した公開講義・特別講義は､「生殖医療の進展の時代にどう生きるか（柘植あづみ先生)」､「性暴力被害の影響と必要な看護職の役割（山本潤先生)」､「なぜ、今、助産政策なのか？（福井トシ子先生)」､「フリースタイル分娩の理論と技術（中根直子先生とご安産一座)」で、県内の多くの看護者や市民の参加があった。さらに、9 月 2 日に開催された、第 31 回静岡県母性衛生学会学術集会において、太田が学術集会長を勤め、領域教員全員で、企画・運営に携わった。

太田は、全国助産師教育協議会の教育検討委員として、大学院での助産師教育モデル・コアカリキュラムの検討に参画し､総会において意見交換の司会を務めた。11 月には､「大学院における助産師教育のモデル･コアカリキュラム 2018」が完成して会員校に公表され、その後は、活用方法について検討を行っている。また、東京でペリネイタル・ロスのサポートグループ「天使の保護者ルカの会」を開催している。看護者向けには、静岡と北九州で、ペリネイタル・ロス看護者研修プログラムを主催するとともに、恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター主催「周産期医療研修会 看護Ａコース：産科編」において、ペリネイタル・ロスの講演を行った。また、静岡県看護協会主催のクリニカルラダーレベルⅢステップ研修において､「周産期領域での倫理的課題」の内容で講師を務めた。

石川は、日本助産評価機構の理事として助産実践評価部の活動である認証評価、奈良県の助産所評価に携わった。平成 29 年度厚生労働特別研究事業「無痛分娩の実態把握及び安全管理体制の構築についての研究」（研究代表者：海野信也）から引き続き、無痛分娩関係学会・団体連絡協議会に、日本看護協会の立場から委員として参加し、無痛分娩に関する看護ケアに習熟した助産師・看護師の研修・指導体制整備に携わった。雑誌ペリネイタルケアの編集委員として、特集号・増刊号の企画編集を行った。日本助産学会政策員として、藤田と同様、診療報酬点数改定に向けて活動、第 33 回日本助産学会で交流集会を企画し、成果を公表した。

中川は、日本助産学会誌の編集委員として、学会誌の編集に携わった。また、一般社団

法人桶谷母乳育児推進協会の研究倫理審査委員会の委員長として研究倫理審査にあたった。平成 30 年度「地(知)の拠点整備事業(COC 事業)地域を志向した研究」に採択され、助産学分野の大学院生と共に研究を行い、2 月 17 日に成果発表を行った。

藤田は、静岡市男女共同参画審議員として、第 3 次静岡市男女共同参画行動計画において、防災や男女間の暴力の根絶、ワークライフバランス、子育て支援を中心に取り組んだ。また、「健やか親子２１（第 2 次)」の中間評価を見据えた調査研究における検討委員会委員を務め、母子保健政策の評価を行った。日本助産学会の助産政策委員として、平成 32 年度の診療報酬点数改訂に向け、助産政策ゼミを 4 回開催し、保険医療機関での助産師の専門性を生かすべく内容について検討した。さらに、日本フォレンジック看護学会の理事として、性暴力被害者対応プログラムの作成検討を行っている。

福島は、富士市健康づくり推進協議会委員として、富士市における子育て支援事業や生活習慣病予防事業の推進に取り組んだ。

山田は、日本看護協会主催の第 5 回日中韓看護学会において、9 月 17 日に研究発表を行った。

6）精神看護学領域の活動

＜教育活動＞

精神看護領域では、人間関係論、生涯発達心理入門、対象の理解Ⅳ、病態学Ⅳ、精神看護学、精神看護学演習、精神看護学実習、臨床心理学入門を担当している。また他の領域と共同で行う授業では、最新看護の動向、発展看護学実習、災害看護演習を担当した。

講義では体験学習や少人数学習方式を積極的に取り入れ、学生が主体的に考え、互いの語り合いの中から新たな学びを広げられるよう、全体の授業構成を工夫している。具体的には、精神科病院での見学実習と実施後の学内での学びの発表、看護学部棟実習室でのリラクセーション法の演習、スマートログなどを用いた睡眠動態の把握による看護ケアプランの検討、ペーパーペイシェントを用いた看護過程の展開やプロセスレコードの作成等を行っている。

さらに、授業から実習への効果的な移行を意図して、外部講師を招聘し臨床現場の実際（精神科訪問看護，当事者からの体験談，司法精神看護等）についての講義をしていただいている。現場のリアルな状況について看護職から直接お話を聞けることは、適度な緊張感とともに学生の学習意欲や問題意識を高め、実習へのモチベーションを高める効果をもたらしている。

なお一昨年度より、これまで2週間の全てを精神科医療施設(病院)で行っていた精神看護学実習を、1週目は病院内、2週目は地域の社会復帰施設(作業所等)で実習する形態へと変更した。それにより、退院後の精神障がい者の生活の実態，社会復帰へ向けた課題，入院時から退院後の生活を視野に入れた精神看護援助の必要性等、精神障がい者に対する学生達の理解と学びの幅が広がった。今年度は引き続いてその取り組みを踏襲したほか、実習施設先から当事者を招いて障害の体験談を学生に語ってもらう取り組みを始めた。発展看護実習，災害看護演習，卒業研究では、各学生が自分の実習テーマ，研究テーマをもち、担当教員や臨床の協力を得て目標達成へつなげる取り組みを展開している。

さらに大学院では精神看護学の研究の修士学生主指導のほか、助産学の研究の修士学生副指導を行った。

＜領域で行っている地域貢献活動＞

篁は、静岡市の自殺対策推進協議会の会長、認知症対策推進協議会の会長、医療審査会の審査委員、またNPO法人風の会の理事、日本学校メンタルヘルス学会の理事・評議員

の役割や清水市立看護専門学校の非常勤講師を担当した。
村方は全国訪問看護事業協会の研修会の講師、清水市立看護専門学校の非常勤講師等を担当した。
遠藤は、清水市立看護専門学校の非常勤講師を担当した。
近藤は静岡市の福祉施設みらいの外部委員を担当した。

7） 公衆衛生看護学領域の活動

＜教育活動＞

学部教育では、30 年度新カリの開始に伴い、公衆衛生看護学概論は 1 年生の後期に開講することとなった。公衆衛生看護学の定義や理念に基づき、ゲストスピーカーをお招きし、学生が地域で生活している住民や保健師活動を具体的に理解できるよう配慮した。3 年生の公衆衛生看護活動論Ⅱの授業では、地区診断の講義後に母子と高齢者の 2 事例を活用して地区診断の手法を学ばせ、9 月から開始された公衆衛生看護学実習Ⅰにつなげた。4 年生の公衆衛生看護学演習では、保健師資格取得希望者全員に乳児の家庭訪問で必要な技術の基本について学習させた。また、事前学習ノートにより個人・グループでの自己学習を通し、公衆衛生看護学実習Ⅱにつなげた。

4 年生の公衆衛生看護学実習Ⅱは、5 月～7 月に行政、産業、学校に分かれて 2 週間の実習を行った。行政における実習施設は、静岡県富士健康福祉センター、富士市保健センター、富士宮市保健センター、静岡県中部健康福祉センター、焼津市保健センター、島田市保健福祉センター、吉田町保健センター、牧之原市総合健康福祉センター、静岡市東部保健福祉センター、同藁科保健福祉センター、同南部保健福祉センター、同大里保健福祉センター、同清水保健福祉センター、同蒲原保健福祉センターであった。主な実習内容は、乳幼児健康診査や健康相談等各種事業に参加し、地域住民のニーズに応じてどのように保健事業が行われているかを、3 年生後期で学んだ公衆衛生看護学実習Ⅰにおける地区診断の取り組みを可能な限り意識させながら学習させた。さらに、各学生が家庭訪問に同行し、行政保健師が行う家庭訪問の実際について学んだ。

産業における実習では、34 人の学生が三菱電機(株)静岡製作所、JR 東海、ジヤトコ(株)、スズキ（株）相良工場で実習した。主な実習内容は、健康診断、健康相談、職場巡視等の参加や健康教育等の実施を通し、労働衛生の 5 管理、産業看護職の役割や多職種との連携について学んだ。

学校における実習では、16 人の学生が 4 グループに分かれ、静岡市立高松中学校、同森下小学校、同東豊田小学校、同千代田東小学校、静岡県立静岡北特別支援学校、同静岡南部特別支援学校、同中央特別支援学校、同清水特別支援学校、同吉原林間学園で実習を行った。主な実習内容は、保健室活動、学級活動の参観、校内巡視、保健教育や保健掲示物の作成等を通し、学校看護活動の実際や養護教諭の役割について学んだ。

国際保健・看護演習及び実習は 3 人の学生が履修した。実習では 8 月 20 日～8 月 31 日にタイのコンケンに出向き、コンケン大学を中心として、シーナカリン病院やコンケン病院脳卒中集中治療室での実習やタイ王国の伝統医療の見学などを行った。演習・実習を通して多様な地域環境に暮らす人々の健康を守るための取り組みをグローバルな視点で学んだ。

3 年生の公衆衛生看護学実習Ⅰでは、2 週間/1 クールで、114 人の学生が実習を行った。実習施設は、静岡県富士健康福祉センター、富士市保健センター、富士宮市保健センター、静岡市保健所、静岡市北部保健福祉センター、同大里保健福祉センター、同藁科保健福祉

センター、同清水保健福祉センター、同蒲原保健福祉センター、静岡県中部健康福祉センター、焼津市保健センター、牧之原市保健センター、吉田町保健センター、島田市保健福祉センターであった。主な実習内容は、担当地域（主に小学校区）を選定し、地図の作成、統計資料の読み取り、地区踏査、住民や専門職からの聞き取り、地域保健活動の参加などを通し、地域の健康課題をアセスメントする実習に取り組んだ。

＜領域で行っている地域貢献活動＞

静岡市新任期保健師研修に協力し、新任期１～3 年目の保健師を対象に、地区活動に関する講義を 6 月に行った（佐藤・深江)。9 月と 12 月には、1 年目保健師と 2 年目保健師の各新任保健師が実際に地区診断を行うプロセスを支援した（佐藤・岩本・望月・安藤・深江)。3 月 8 日には、地区活動の発表会に参加し、各保健師の地区診断の取り組み状況をふまえ、次年度にどのように繋げていくかといった観点で各教員が講評を行った（佐藤・岩本・望月・安藤・杉山・深江)。

静岡県医療健康局健康増進課からの依頼で、県健康福祉センターと県内市町の新任期保健師を対象とする新任期地域保健従事者研修会に講師として協力した。(杉山）また賀茂健康福祉センター及び中部健康福祉センターの管内保健従事者新任期研修の講師として協力した。(深江）

富士市の保健師全員を対象とした富士市地区活動研修の協力を行った。(深江)。

富士健康福祉センターからの依頼で、平成 30 年度管内地域保医療・福祉活動研究会の発表内容に関する助言・講評を行った(佐藤)。

また、島田市から委託生１名を受け入れ、市町村子ども家庭総合支援拠点に関する研究への指導を行った（杉山)。

8）在宅看護学領域の活動

＜教育活動＞

疾病や障害をもちながら生活する人々とその家族を理解し、人々の生活の質向上に貢献する看護を展開するために必要な知識と看護技術を修得することを教育活動の目的としている。学部の科目編成は、「地域包括ケア」「地域家族支援論」「在宅看護学」「在宅看学演習」「在宅看護学実習」「発展看護実習」「卒業研究」である。看護学研究科においては、共通科目選択「在宅看護論」「家族看護論」と専門科目では「地域看護学特論」「地域看護学演習」「地域看護学応用実習」「地域看護学特別研究」である。

在宅看護学領域においては、地域包括ケアや在宅看護の展開に必要な知識・判断・看護技術・療養環境の整備等について、学生自らが主体的に学ぶ姿勢を養うアクティブラーニングを活用している。本年度より学部１年生を対象とした「地域包括ケア」が開始され、講義と住民の自主活動に参加することで、住み慣れた地域で自分らしく最期まで暮らすことができる看護支援について理解を深めることができた。

「在宅看護学」の学びを基盤とした「在宅看護学演習」は、地域包括ケアシステム推進に取り組む講師による活動事例の紹介と、静岡市内の地域包括支援センターを拠点とし、多職種への聞き取りを行うフィールドワークで構成されている。「在宅看護学実習」は、①訪問看護ステーション実習、②在宅療養を支える関連施設実習（地域リハビリテーション推進センター、重症心身障害児・者施設）③医療機関における在宅復帰を予定する患者を中心とした多職種連携を学ぶ実習、で構成されている。

看護学研究科では、長谷部美紀、青木瞳（地域看護学専攻１年）が「家族族看護論」

で学んだ理論を活用した実践報告で、第 8 回日本在宅看護学会学術集会 優秀ポスター賞を受賞した。

＜領域で行っている地域貢献活動＞

冨安眞理

1) 静岡市 在宅医療・介護連携協議会委員として、実施計画の検討を目的とした会議に参加した。啓発研修部会 部会長として、専門職向け研修会「多職種協働で「自宅でずっと」認知症の人を支える」（H31 年 1 月 27 日）の企画・運営を担当した。
2) 第 8 回日本在宅看護学会学術集会（H30 年 12 月 8,9 日）の大会長として、企画運営を担当した。
3) 平成 30 年度静岡県患者のための薬局ビジョン推進事業　多職種意見交換会（H31 年 1 月 31 日）特別講演「在宅医療における多職種連携の重要性について」を担当した。

今福恵子

1）静岡県訪問看護ステーション協議会　新卒訪問看護師育成委員会の委員として新卒訪問看護師の育成目的の会議に参加した。
2）第 8 回日本在宅看護学会学術集会（H30 年 12 月 8・9 日）の企画委員として、企画運営に携わった。

酒井知子

1） 第 8 回日本在宅看護学会学術集会（H30 年 12 月 8・9 日）の企画委員として、企画運営に携わった。

田中悠美

1）静岡市障害支援区分認定等審査会の審査委員として、会議に参加した（平成 29 年 4 月～平成 31 年 3 月）。
2）第 8 回日本在宅看護学会学術集会（H30 年 12 月 8・9 日）の企画委員として、企画運営に携わった。

9）国際看護学領域の活動

＜教育活動＞

国際看護学領域

国際看護学は、すべての人々の健康維持・改善のために、地球規模の健康格差との背景を学び、国際保健における看護の役割と実際を学ぶ学問である。本領域では、災害看護も担当している。従って、学生は、国内外で起こる災害の種類、災害対策・疾患予防や、災害時支援における看護の役割と実際についても学習する。開発途上国、先進国、在留外国人の健康問題、災害発生前の対策や発生後について、それぞれの国・文化・宗教・言語などを考慮した看護について理解を深め、文化的能力を身につけるべく、学習し実践する。

2018 年度の教育的取り組みの 1 つは、看護学部の海外提携校を増やし、海外実習地を開拓したことである。以前までは、海外実習地はタイ（国立コンケン大学看護学部）の一箇所であったところ、2019 年度からは、発展看護実習において、インドネシア（パジャジャラン大学看護学部）や米国（ポートランド州立大学）でも可能となった。これらの海外実習地は、2021 年度に開講する「国際保健看護実習」他にも適応できる。

２つ目の取り組みは、国内外で活躍する国際保健・災害医療の実践家・教育者・研究者たちを「国際保健・災害看護論」「国際看護論」「発展看護実習」にゲスト講師として招き、講義のみならず、討論やワークショップの場を設けたことである。学生は、多職種連携・

各専門職の役割・国際支援に対する異なる専門職者の考えを学ぶことができた。

３つ目の取り組みは、「国際看護論」「発展看護実習」で、学生が在留外国人と交流・意見交換する場と課題を設けたことである。地域の在留外国人と対話することで、在留外国人の医療格差・ニーズについて理解を深め学習することができた。

４つ目の取り組みは、2018 年度に採択された「文部科学省・大学の世界展開力強化事業～Collaborative Online International Learning (COIL)型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援～」プロジェクトに本領域が参加したことである。COIL プロジェクトは、上智大学・お茶の水女子大学・本学が米国 10 大学との２国間の大学連携を図り、学生へのグローバル教育機会の提供等を行い、第三国への展開を通じた途上国の教育格差是正への貢献を目指している。2019 年１月 21 日には、米国オレゴン州のポートランド大学看護学部教員 3 名と、本学初となる COIL 授業を展開し、両国各 10 名の学生が参加した。米国 3 教員による途上国医療の現状の講義後、学生たちはグループディスカッションを行い、双方の学生から看護における共通認識が確認でき、有意義であったとの意見を得た。

これら４つの取り組みは、本学生に、国際看護学をより多角的・多文化的に学習する機会や選択肢を提供するだけでなく、学生がオーセンティックラーニングの実践を行うことに繋がった。次年度は①さらなる海外提携校を開拓し、②本領域での COIL 授業の促進を図り、③2 年生の必修科目となる「災害看護セミナー」では、国内外における災害対策と看護実践の教育を目指す。

＜領域で行っている地域貢献活動＞

国際看護学領域

2018 年度より、当領域でも発展看護実習と卒業研究が開講した。4 年生対象の発展看護学実習では、履修生が JICA 静岡デスクの山口実香氏（看護師）や国境なき医師団理事の加藤寛幸氏（医師）と GO や NGO 視点でのワークショップを行い、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals、SDGs）の理解を深めた。その中で、いくつかの SDGｓの目標を国内外の医療問題と結びつけ、学生や看護師として地域貢献に繋げるにために何が必要かも学び、その後の発展看護実習をとおして実践を行った。

同年 9 月、米国オレゴン州ポートランド市の移民・難民支援センターでは、本学部４年生（1 名）が移民・難民について学習しながら、支援チームに参加しアウトリーチを行うなどの発展看護実習を行った。支援チームの定期会議では、訪問した移民・難民の健康や継続医療について、看護学生として活発に意見を述べることができた。同時期に、この学生はオレゴン州の難民の健康問題に関する卒業研究も行った。その卒業研究抄録は、2019 年 11 月中旬にワシントン DC で開催される Sigma Theta International 45th Biennial Convention（国際看護学会）に採択され、ポスター発表が決定した。学生の積極的な関わりと学習成果が国際学会で発表されることにより、専門職者だけでなく、より多くの学生たちに難民問題の周知ができ、学部生ができる国際支援のあり方なども地域に伝えることができると考える。これらの活動は、直接的地域貢献ではないものの、より多くの人が難民問題を知ることで、難民に対する地域の理解と今後の取り組みへのヒントとなり、間接的な地域貢献となっていると考えられる。

2018 年 10 月には、発展看護学履修の４年生３人が、静岡市の済生会病院で行われた「外国人のための無料健康診断と検診会」に参加し、地域の在留外国人の血圧・身長・体重測定などを行ったり、県内の多職種ボランティアスタッフとの交流を図った。学生たちは、検診会に来た在留外国人たちそれぞれへの健康教育に対する声掛けなども行った。この実習を通し、学生は地域に暮らす在留外国人への理解を深め、文化的能力の実践も発揮することができた。これらの活動も、県内の国際交流と保健医療協力という形で地域貢献になったと考える。

VIII. 学部・研究科としての社会貢献

1. 公開講座等の開催状況

講義は地域への開放と共に学ぶ機会の提供を目的とし、公開可能な講義を公開した。開催時期、テーマ、講師、参加者数は、次表(表Ⅵ-6-2)の通りである。

表Ⅵ-6-2　H30 年度特別講義実施状況

	開催日	テーマ	講師	参加人数
1	7/11(水)	アメリカで看護師として働くには	角田　みなみ	73
2	9/14(金)	急性期から始める脳卒中患者の在宅移行支援	林　みよ子	191
3	10/9(火)	「科学」を哲学してみよう	伊藤　良司	22
4	10/15(月)	認知症高齢者の力を引き出す看護	膽畑　敦子	90
5	10/16(火)	難病療養者とその家族を中心としたコミュニケーション支援(仮)	中山　優季	91
6	10/19(金)	クリニカルナーススペシャリスト(仮)	竹熊カツマタ麻子	210
7	11/2(金)	国内におけるネオボラの取り組み（仮）	福島　富士子	221
8	11/5(月)	国内外におけるへき地医療現状と看護職の役割	八代　利香	144
9	11/8（木）	米国大学の看護臨床実習の現状と課題(仮)	オレゴン健康科学大学 Ann　Nielsen	82
10	11/16(金)	生殖医療の進展の時代にどう生きるか	柘植　あづみ	70
11	12/12(水)	性暴力被害の影響と必要な看護職の役割	山本　潤	58
12	12/21(金)	最新の緩和医療　Dramatic Story	知念　正佳	61
13	1/21(月)	リカバリー　当事者主体の精神保健医療福祉に向けて	田中　美恵子	33

2. 高大連携事業

今年度は静岡県内の 15 校からの要望に対応した。ほとんどの高校が進路指導の一貫として行われており、大学での講義の様子を知るために看護学や医学領域の基礎的な知識を教授する講義への要請であった。出張講義では、高校生に対して大学での講義・演習や看護学部のイメージが持てるように、また看護学への興味・関心がわくような講義を心がけた。高校によっては、講義後に生徒にアンケートを行い、その結果を講師にフィードバックしている高校もあった。看護職に対する興味関心が高い今日において、看護を学ぶことの意味や重要性を高校生に伝え、看護学部の存在をピーアールする大切な機会として今後も積極的に取り組んでゆく必要がある。概要は以下(表Ⅵ-6-2)のとおりである。

表Ⅵ-6-2　　高大連携による講師派遣

	学校名	派遣教員	テーマ	開催日	学年	参加人数
1	藤枝西	倉本直樹	模擬講義(学部説明・進路状況)含む	6/20	1, 2	30
2	清水桜ヶ丘	福島恭子	看護のはじまり、これから	7/9	3	15
3	三島北	篁宗一	「心のケア」の講義	7/9	2	40
4	清水南	糸川紅子	生活をデザインする看護	7/9	2	60
5	富士市立	山口みのり	看護の仕事と役割	7/13	2	31
6	吉原(富士市)	藤田景子	看護職という仕事、看護に関する研究について	7/17	1,2,3	50
7	御殿場南	村方多鶴子	10 年後のわたし～看護職として働く	7/18	2,3	20
8	富士東	鈴木和香子	静岡県立大学看護学部の紹介・小児看護学の講義体験	7/24	1,2,3	45
9	静岡学園	木元千奈美	大学では何を学び看護師になれば何をするのか	8/21	2	60
10	静岡市立	中川有加	命をつなぐ看護師の仕事	9/7	1,2,3	57
11	沼津市立	青木和惠	-心と科学の実践 「看護」の魅力-	9/20	1,2,3	80
12	下田	石切山千恵	家族看護について	9/21	2	30
13	磐田西	三﨑健太郎	ヒトの免疫システムと感染症対策の歴史	9/25	2	17
14	沼津城北	田中範佳	看護とデザイン	9/26	2	30
15	清水西	管原清子	看護の授業を体験してみよう！ ～看護ってどんな仕事？～	10/15	1,2,3	102

16	三島南	操華子	インフルエンザ・感染性胃腸炎などの感染症から身を守るための生活習慣	10/16	1,2	60
17	伊東	今磯純子		10/23	1,2	10
18	静岡城北	山田紋子	看護って何だろう? 看護学って何だろう?	10/24	1,2,3	64
19	富士宮西	杉山眞澄	睡眠と健康	10/30	1,2	62
20	磐田東	永谷幸子	看護職に必要な主体性と判断力の育成について	11/2	2	15
21	星陵(富士宮)	遠藤りら	超高齢社会と地域医療－看護職に求められる役割とは－	11/14	1,2	67
22	浜松湖南	長澤利枝	看護師を目指すために～静岡県立大学看護学部を通して	11/15	2	40
23	三島北	山下早苗	専門分野（小児看護学）について	11/20	2	30
24	焼津中央高校	飯塚真樹	手術を受ける高齢者の看護	12/6	1,2	25

3. 県民の日大学ツアー

『夏休み県大ツアー』は、県民の日事業として 8 月 17 日(金) 13：00～16：30 に草薙キャンパスで実施した。看護学部は、2 階の実習室で、専門基礎領域が担当する人体模型を使い、クイズをとおして学んでもらうコーナーと、広報企画委員による、健康な入浴に関するポスター掲示とバスボムをつくってみよう！」を行った。参加者にはグループ毎に見学･体験をしてもらった。117 名の参加があり、親子で参加する人が多かった。

事後アンケートでは、小学生以下では 8 割を越す参加者が「楽しかった」と答え、全学部の中でもトップであった。ゲーム感覚で体験できる企画とバスボムを持ち帰ることが出来たのが高評価のポイントと考えられた。